平成28･29年度
思いやりを育む安心できる学校づくり実践研究事業

思いやりを育む安心できる学校づくり
実践研究報告書集

平成３０年３月

青森県教育委員会

本冊子の発行にあたって

生徒指導は、学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たしており、学習指導と並んで学校教育において重要な意義をもっています。

各学校においては、こうした生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ一層の充実を図っていることと思います。

特に、生徒指導の推進に当たっては、自己指導能力の育成を目指し、表面的に現れた問題行動等に目を奪われることなく、児童生徒一人一人のアセスメントをしっかりと行うとともに、問題行動等の未然防止に向けた取組を積極的に行うことが大切です。

県教育委員会では、「思いやりを育む安心できる学校づくり実践研究事業」として、県内小・中学校合わせて１２校に対して研究委託し、平成２８年度から２か年にわたり、問題行動の未然防止に係る取組を推進する実践研究に取り組んでいただきました。研究の中では、児童生徒の実態把握のために学校環境適応感尺度「アセス」を実施して児童生徒理解に努めるとともに、教育活動全体を通じて、児童生徒一人一人が輝ける居場所づくりや仲間との絆づくりを行ったものです。

今回、各研究指定校の創意工夫をいかした取組を実践研究報告書としてまとめ、県内公立小・中学校等へ配布することにいたしました。各学校におかれましては、本冊子の取組を参照され、それぞれの実態に合わせて積極的に活用し、いじめをはじめとする問題行動及び不登校の未然防止を一層進めてくださるようお願いします。そして、すべての児童生徒が生き生きと目を輝かせ、安心で楽しい学校生活を送ることができるよう願っております。

最後になりますが、実践研究の実施及び本報告書の作成にあたり、御理解と御尽力をいただきました研究指定校の教職員及び関係者の皆様に心から敬意を表しますとともに、厚く御礼申し上げます。

平成３０年３月

青森県教育庁
学校教育課長　一　戸　利　則

目　　次

青森市立油川小学校　1
自分の思いや考えをもち、進んで表現できる子どもの育成
～言語活動の工夫や安心できる居場所としての学級集団づくりを通して～

中泊町立武田小学校　１５
思いやりを育む安心できる学校づくり
～一人一人が輝き、その輝きを認め合う学校づくり～

大鰐町立大鰐小学校　２７
思いやりの心をもち、共に学び合いつながり合う子どもの育成
～ＳＥＬ・協働学習を取り入れた授業を通して～

おいらせ町立下田小学校　３７
思いやりを育む安心できる学校づくり
～児童一人一人が輝ける居場所づくりや仲間との絆づくりを実現する学校づくり～

むつ市立第三田名部小学校　４７
アセスを活用した一人一人を生かす集団づくりの実践

八戸市立鮫小学校　５９
心づくりを基盤とした思いやりのある児童の育成

青森市立油川中学校　６９
生徒一人一人が輝ける居場所をつくるために、自己肯定感、自己有用感を高める
指導の在り方

深浦町立大戸瀬中学校　７７
アセスの結果を取り入れた授業改善を通して、生徒の自己有用感を高める研究

大鰐町立大鰐中学校　８７
生徒の思いやりを育み、居心地のいい学級をつくるための学習指導のあり方
～各教科における協同学習の実践を通して～

東北町立上北中学校　９７
思いやりを育む安心できる学校づくり
～生徒一人一人が輝ける居場所・絆づくり／安心して生活できる学校生活の推進／
教員の指導力向上～

東通村立東通中学校　１０７
アセスメントツールを活用した組織的な支援のあり方についての研究
～教育活動全体を通じた思いやりの育成と居場所づくり、人間関係づくりを通して～

八戸市立鮫中学校　１１９
居心地の良い学級づくり
～すべての生徒が集中して学習に取り組める指導の工夫～

青森市立油川小学校

自分の思いや考えをもち、進んで表現できる子どもの育成

～言語活動の工夫や安心できる居場所としての学級集団づくりを通して～

Ⅰ　学校の概要

１　学校の概要

児童数５４９名，家庭数４３１世帯（５／１現在）の大規模校である。学区が広いこともあり，毎日バス通学をしている児童が約３０名，保護者の車で来ている児童が約３５名ほどいる。

２　学校経営方針

一人一人の児童のよさや可能性を伸ばし，夢や志の実現に向けた教育活動を推進する。教育活動のすべては，教育目標，努力目標，学年目標，学級目標の具現化に向けて計画・実施する。その際，児童理解に努めると共に，児童と教師の信頼関係を大切にする。保護者や地域社会との連携を大切にする。

Ⅱ　研究の概要

１　研究主題

「自分の思いや考えをもち，進んで表現できる子どもの育成」

～ 言語活動の工夫や安心できる居場所としての学級集団づくりを通して ～

２　主題設定の理由

本校では，教育目標の「かしこく」や努力目標の「基礎・基本をしっかり身に付け，互いの考えを深め合い，学習する子」を受け，「自分の思いや考えをもち，進んで表現できる子どもの育成」に努めてきた。その結果，筋道立てて考え，条件に応じてかいたり話したりすることや，全体の場で自分の考えを分かりやすく表現することなどを苦手とする子どもがやや多いことが分かった。

そこで，青森県教育委員会から，２８・２９年度の２年間委託された「思いやりを育む安心できる学校づくり実践研究事業」について研究を深め，「各学級におけるアセスの分析」「日常的な勇気づけによる適切な声がけや接し方」「生徒指導の三機能を生かした授業づくり」や「授業のユニバーサルデザイン化」に配慮したり，「クラス会議」や「人間関係づくりプログラム」を取り入れたりしながら，子ども同士の適切な横のつながりの強い安心できる居場所としての学級集団づくりを土台にし，主体的に話合いを通して課題や問題を解決しようとする態度を育てることで，上記の課題解決に迫れると考え，本主題を設定した。

３　研究の目標

自分の思いや考えをもち，進んで表現できる子どもを育成する学習指導法のあり方を，教科や特別活動における言語活動の工夫や安心できる居場所としての学級集団づくりを通して明らかにする。

４　研究方法の概要

仮　説

生徒指導の三機能を生かした授業づくり・クラス会議・人間関係づくりプログラムを充実させることにより，思いやりを育み安心できる学校づくりの具現化を図ることができるのではないか。

内　容

【居場所づくり・絆づくりの工夫】

・生徒指導の三機能を生かした授業づくり
・適宜状況に合わせたり，意図的・計画的に実施したりするクラス会議や，人間関係づくりプログラム（対人関係ゲーム・ＳＳＴ・ＧＷＴ・ＳＧＥ）を基にした学級集団づくり

５　研究経過

【２８年度】

通年：生徒指導の三機能を生かした授業，挨拶運動，音楽集会

【２９年度】

通年：生徒指導の三機能を生かした授業，クラス会議，勇気づけによる声がけや接し方，

夏季休業中：アセスの理解・分析，クラス会議の紹介（講師依頼）
冬季休業中：アセスの分析・クラス会議への指導・助言（講師依頼）
６月：アセスの実施と分析①
９月以降：クラス会議（月一回程度）
１０月：油小チームワークチャレンジ
１２月：アセスの実施と分析②
１月以降：人間関係づくりプログラム（月一回程度）
人間関係づくりプログラム，授業のユニバーサルデザイン化，挨拶運動，音楽集会
４月：アセスの実施と分析①
７月：アセスの実施と分析②
１０月：油小チームワークチャレンジ
１１月：公開発表
２月：アセスの実施と分析③

Ⅲ　研究の実際

【事業目的に向かうための構造図】

生徒指導上の課題解決

絆づくり（自主的・自治的・自律的な態度の育成）

○生活・学習面での課題や問題を，自主的に話合いを通して解決しようとする態度を育てる。
○解決策の話合い・決定 → 実施 → 評価 → 改善といったサイクルを身に付けさせ，自主的・自治的・自律的な態度を育てる。

☆クラス会議　☆委員会活動
☆クラブ活動　☆集会や行事
☆縦割り班清掃

安心できる居場所としての学級集団づくり
（居場所づくり）

○子どもが，「**所属感**（自分には，受け入れてもらえる友達・先生・教室・学校等がある）」「**信頼感**（友達・先生・教室・学校等は，自分にとって役立つものである）」「**貢献感**（自分は，友達・先生・教室・学校等にとって役立つ存在である）」「**自己受容**（あるがままの自分を好きだと感じられる）」といった感覚（**共同体感覚**）を身に付け，**子ども同士が適切につながり，協同的**（心と力を合わせて助け合って仕事をすること）**で，安心した生活・活動ができ，自己存在感や充実感を感じられる学級集団**をつくること。

共同体感覚の育成

貢献感	所属感	信頼感	自己受容

☆生徒指導の三機能を生かした授業づくり
☆授業のユニバーサルデザイン化

☆クラス会議
☆人間関係づくりプログラム

日常の適切な声がけ・接し方（勇気づけ）

アセスを用いた子どもの学校適応感の分析

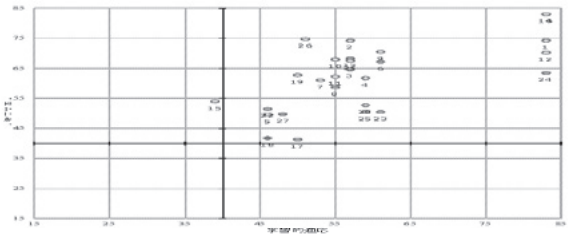
・教室での観察
・保護者や職員からの情報

1　アセスを用いた子どもの学校適応感の把握と分析

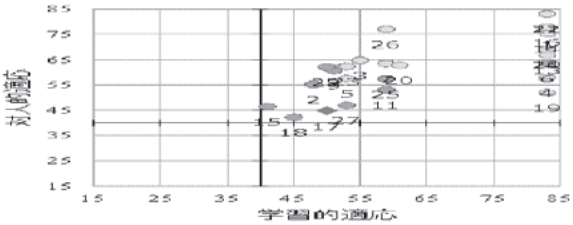
①「アセスを用いた学級集団の分析」のための資料

ア　「学級内分布票」:「生活満足感」「学習的適応」「対人的適応」の３つの要素を用いて，学級全体の適応感を表したもの。

第１回 学級内分布票



第２回 学級内分布票



「生活満足感」: 生活全体に対して，満足や楽しさを感じている程度のこと。

「学習的適応」: 学習の方法も分かり，意欲も高いなど，学習が良好だと感じている程度のこと。その得点を横軸(Ｘ軸)に示している。

「対人的適応」: 教師サポート・友人サポート・向社会的スキル・非侵害的関係の４つの平均得点を，「対人的適応」として縦軸(Ｙ軸)に示している。

※「対人的適応」と「学習的適応」の両方について，４０未満の領域は，「要対人支援領域」と「要学習支援領域」となり，支援の緊急度や重要度が高くなる。

イ　「要学習支援領域」や「要対人支援領域」に属する人数

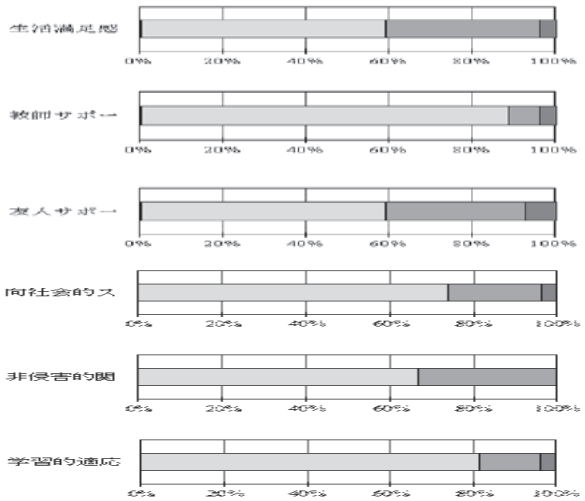
	赤△の数(人)		オレンジ◇の数(人)		緑○の数(人)		青○の数(人)	
	１回目	２回目	１回目	２回目	１回目	２回目	１回目	２回目
要学習支援領域	0	0	0	0	0	0	1	0
要対人支援領域	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計（人）	0	0	0	0	0	0	1	0

ウ　「要学習支援領域」や「要対人支援領域」以外に属する人数

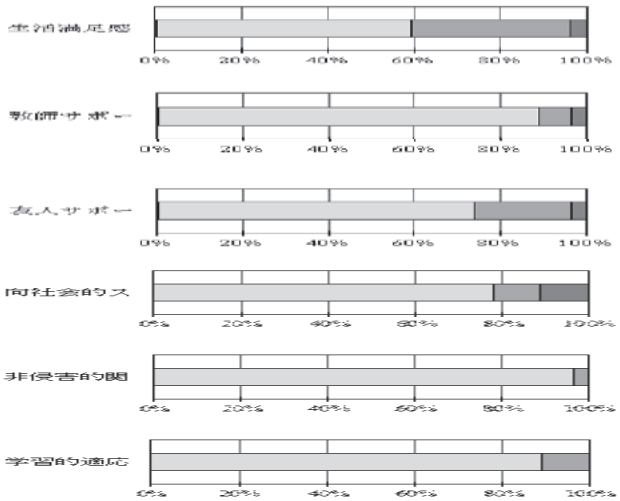
	赤△の数(人)		オレンジ◇の数(人)		緑○の数(人)		青○の数(人)	
	１回目	２回目	１回目	２回目	１回目	２回目	１回目	２回目
合　　計（人）	0	0	1	1	１０	１０	１５	１６

エ　６因子のグラフ

第１回



第２回



②「①の資料を用いた学級集団の分析」

【各学期の目標】

1学期	「要学習支援領域」の青〇の子どもは，「生活満足感」を上げる要素が学校以外にあることが考えられる。また，「要学習支援領域」や「要対人支援領域」に属せず，支援の緊急度が高いオレンジ◇の子どもは，学校以外に「生活満足感」を下げる要素があると考えられるので，家庭との連絡を密にし，・・・・
2学期	１学期に支援の緊急度が高いオレンジ◇１名は，緑〇へと変わった。これは，上述した手立て等により，「生活満足感」や「友人サポート」の数値が上がったためと考えられる。しかし，新たに「要学習支援領域」や「要対人支援領域」に属さないオレンジ◇が１名見られた。これは，「生活満足感」が下がったためで・・・

【各学期の評価】

１　学　期	
成　　果	課　　題
第２回目の「学級内分布票」では，第１回目の「要学習支援領域」だった青〇１名が，「要学習支援領域」・・・	第１回目の「要学習支援領域」だった青〇１名が，青〇から緑〇へと変わり，「友人サポート」「向社会・・・

③　「①の資料を用いた個人毎の分析」

年　組　番　　因子間の相関関係を踏まえた個別支援

適応次元（平成２８年６月）		個別支援
生活満足感	４４	落ち着きに欠ける・大事な話を聞かない・友達に迷惑をかけることが多い。注意される回数が多いので，教師サポートの値が低くなったと考える。リコーダーのくわえ方の良さをほめたところ，大変喜んでいた。保護者面談では，家でも・・・・
教師サポート	３６	
友人サポート	４３	

年　組　番　　因子間の相関関係を踏まえた個別支援後の子どもの変容

子どもの変容や様子
配達などのお手伝いを進んでするようになったが，相変わらず落ち着きにかけ，注意することがある。大きな声を控えて勇気づけるように話すことで，落ち着いて聞けるようになった。教師サポートが３６と低かったので，配達などのお手伝いや技能教科等で後片付けをしてくれたときには，忘れずに・・・・・

２　日常の適切な声がけや接し方

①「共感する関係」や「勇気づけ」による声がけ・接し方を心がけ，「共同体感覚（貢献感・信頼感・所属感・自己受容）」を育てる手立ての一つとする。

ア　相手と並び，感情に共感することで，相手の満足度を満たす → 信頼関係の構築

イ「勇気づけ（ありがとう・うれしい・助かった）」を心がける。→ 貢献感・所属感の育成

②不適切な行動に巻き込まれないようにする。

授業中に不適切な行動をとる子どもにばかり注意・注目して，巻き込まれないようにする。

③賞罰で子どもをコントロールしない，「意見言葉」を使う。

ア　勇気づけながら自主性を伸ばし，自律した行動をとれるようにしていく。

イ　自分を主語にして，あくまでも自分の意見に過ぎないのだけれど，という前提で話をする。

④その他（一部省略）

ア　普段から「友達のいいところを見つけて言うことの大切さ」を繰り返し伝える。

イ　聞くことは，相手とのよい関係をつくる大切な行為であることを，繰り返し指導する。

３　生徒指導の三機能を生かした授業づくり（紙面の都合により一部抜粋）

①「共感的人間関係を築かせる」ための留意点

・状況に応じて教師が自己開示する。

・発表者を見て，うなずく・「ああ。」「おおー。」「ええっ。」・拍手・・・・等の自分なりの反応をしながら聞き，共感的に聞く学級風土づくりに努める。

・相手を責めるような言い方をしない・責めても問題は解決しないこと等を共通理解する。

②「自己存在感を味わわせる」ための留意点

・自分は価値ある存在であることを実感させるようにする（ありがとう・助かった・うれしい等の勇気づけ)。

・導入場面では，より多くの子どもが参加できるような展開を心がける。

③「自己決定させる」ための留意点

・自ら課題を見つけて追究する・判断する，表現する等の場を意図的に設ける。

・「～さんは，どう思うの。どうしたいの。」「○・△・☆と３種類あるけど，どれにする。その理由は。」等のように声がけし，自分で考えて決めさせるようにする。

・振り返りや自己評価の場を設ける。

④「アセスと生徒指導の三機能を位置付けた指導案」

前述した「アセスを用いた学級集団の分析のための資料」と「分析」，「単元や本時で留意する生徒指導の三機能」を位置付けた指導案を作成し，生徒指導の三機能を生かした授業づくりに努めた。

⑤「生徒指導の三機能を生かした授業づくり」チェックシート

		４：よくしている　３：時々している　２：あまりしていない　１：ほとんどしていない	自己評価			
自己存	1	間違った応答も大切にしたり，どんな発言でも取り上げて大切にしたりしているか。	4	3	2	1
	2	名前を呼ぶ・目を見て話すなど，子どもに存在感をもたせるようにしているか。	4	3	2	1
	3	つぶやきを積極的に取り上げ，発表のチャンスを与えるようにしているか。	4	3	2	1

※　定期的に，上記のようなチェックシートを用いて自分の授業を自己評価し，改善を試みた。

４　授業のユニバーサルデザイン化

①　学級環境チェック

１　場の構造化	
・教室内の整理整頓を心がけ，必要な物の置き場はできるだけ決めている。	
・座席の位置は，個々の子どもの特徴に合わせたものになっている。	

②　授業における指導

１　時間の構造化	
・１日の見通しがもてるように，時間割や活動場所やその変更が，黒板等でいつも確認できるようにする。	
・授業の始めに内容や進め方などの見通しを提示する。	

※　より多くの子どもを学習に参加させられるよう自己評価し，改善に役立てた。

５　クラス会議＆絆づくり（紙面の都合により一部抜粋）

①　クラス会議とは

アドラー心理学に基づき，日常的・継続的に行うことで，共同体感覚を育てていけるプログラムのこと。

②　クラス会議実施上の留意点（一部省略）

・学級での「勇気づけによる声がけや接し方の繰り返し」とタイアップして取り組む。
・話し合いの場は，全員が対等であることを，繰り返し伝えます(輪になって座ります)。
・教師は，笑顔・明るいトーン(何だか先生，楽しいことをしようとしている)で，子どもが理想を実現しようとワクワクするような語り方・様子・雰囲気を大切にする。
・完成度の高い解決策を出すのがねらいではない。決まった解決策を実施して，不具合が生じたら再検討する。そして，次の解決策を見つけていく。
・個人的な困り事のために，クラスのみんなで話し合い，自分なりに最適な解決策を見つけ出させることで，クラスや友達に愛着・信頼感・居心地のよさをもたせ，クラスや友達のために何かしたいという貢献感を育て，安心できる居場所としての学級集団づくりを可能にさせていく。

③　クラス会議の実施スケジュール

１時間目：立ち上げようクラス会議　「輪になってコンプリメント」
２時間目：コミュニケーションの力を伸ばす　「効果的な聞き方・話し方」
３時間目：多様な見方・考え方をする　「５種類の動物のアクティビティ」
４時間目：やる気の出る解決　「ブレインストーミングと問題解決」
５時間目：問題解決をしよう　「さあ，本番！クラス会議」
６時間目以降：子どもの手にゆだねる　「クラス会議をわたしたちの手で」

④　本校のクラス会議（ロング・ショートバージョン）の展開

【ロングバージョン　学級活動の４５分間】

いすで丸い輪になる → コンプリメントの交換 → 話合いのルール確認 → 前回のロングバージョン（学級で一つに決めた事柄，全員が個人毎に選択した事柄）の議題の振り返り（提案者から様子を聞く，うまくいっていなければ帰りの会で前回の解決策の残りから選択をする等）→ 新たな議題の提案と理由の発表，話し合っていいかの確認 → 解決策を出し合う（輪番）→ 気になることの発表 → 解決策の選択・決定（合体あり）→　ノート書記による決定事項の確認 → 副司会の勇気づけ → 教師の勇気づけ → 実践

※（１）の内容：<u>全員で多数決し一つの意見に絞って</u>決定する。
（２）の内容：<u>提案者以外の子どもも選択・決定</u>をする。
※「振り返り」を全員がクラス会議ノートに書く（帰りの会等）。

【ショートバージョン　毎週水曜日の昼休み後の１５分間】　（状況に応じて帰りの会も利用）

いすで丸い輪になる → 議題の提案と理由の発表 → 解決策を出し合う（輪番）→
解決策の選択・決定 → 実践

※ 全体の場で，振り返りはしない（「何か問題があったら，また提案してね」）。
※ 板書を写真・ノートに残し，その中から新たな解決策を選択させる。
※ 提案者が「振り返り」をクラス会議ノートに書く（帰りの会等）。

⑤　「クラス会議」「人間関係づくりプログラム」を位置付けた「学級活動年間指導計画」

学級目標							
学期	月	題　材　名	活動内容（1） 予想される議題例	活動内容（2） 題材と主なねらい		指導のポイント	他の教育活動との関連
一学期 仲間意識を高める	4	学級生活の計画を立てよう	○係の仕事を考えよう（イ）	○こんな４年生に ○クラス会議〔クラス会議の約束〕 ○人間関係づくりプログラム「バースデイチェーン」	アウウ	・異なる考えをしっかり聞き，理由を明確にして意見を言えるようにし，楽しい学級生活をつくることができるようにする。	始業式 入学式 クラブ編成 交通安全教室
	5	４年生としての自覚をもとう	○クラス会議「運動会のめあてを決めよう」（ウ）	○教室の美化 ○人間関係づくりプログラム「アドジャン」 ○人間関係づくりプログラム「名簿作り」	エウウ	・仲間意識を高め，男女仲良く協力して過ごすようにする。 ・清掃活動を通し，人の役に立つことの喜びを感じさせ，望ましい勤労観を育てる。	運動会
	6	クラスのまとまりをつくろう	○クラス会議「楽しい縦割り遠足にしよう」（ウ）	○正しい歯みがき ○クラス会議「給食のおぼんをきれいに片付けるには」（ウ）	カエ	・縦割り遠足のめあてを決め，異学年で協力して楽しく活動しようとする態度を育てる。	縦割り遠足

６　人間関係づくりプログラム

平成２９年度　「人間関係づくりプログラム」年間指導計画

		学級開き	連休明け	運動会前	１学期まとめ	２学期始め
友人サポート・非侵害的関係	ロング	探偵ゲーム（**対人関係ゲーム**）	風船送り（**対人関係ゲーム**）	じゃんけんボウリング（**対人関係ゲーム**）	王様ドッジボール（ＧＷＴ）	人間知恵の輪（**対人関係ゲーム**）
		質問に当てはまる人を探し，交流を深める	風船を運び，一体感を味わう	友達と関わる楽しさの実感	協力してゲームを行う楽しさを味わう	仲間とのつながり・仲間意識
	ショート	バースデイチェーン（**対人関係ゲーム**）	人間いす（**対人関係ゲーム**）	フープ送りリレー（**対人関係ゲーム**）	サイコロトーク（**対人関係ゲーム**）	進化ジャンケン（**対人関係ゲーム**）
		言葉を使わず協力・深める	身体を使った触れ合いを通し，支え合う	協力と一体感を味わう	友達との共通性や違いの発見	友達に対する親和感を高める
向社	ロン	アドジャン（**対人関係ゲーム**）	ふわふわ言葉とちくちく言葉（Ｓ	Ｔ）	ゴムゴムＵＦＯキャッチャー（Ｇ	無人島ＳＯＳ（ＳＧＥ）

7　結果と考察から

①アセスによる検証から

ア　各学級のアセスの６因子の変容　　（平成２８年度）　　（１・２学年省略）

適応次元	生活満足感		教師サポート		友人サポート		向社会的スキル		非侵害的関係		学習的適応	
回　数	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
３学年	５８	５５	５０	**５５**	５５	５７	５５	５３	５８	**６５**	５１	５１
	４９	**５５**	５５	**６０**	５３	**５８**	５３	５５	５３	５５	５０	５０
	５８	５３	５７	**６１**	５２	５４	５１	４９	６２	５８	５３	５１
４学年	５６	**６７**	５８	**６８**	６０	**７０**	６０	**６５**	６７	**７４**	５６	**６３**
	６４	**６８**	７６	７８	６６	**７２**	６１	**６４**	７６	７２	６２	６２
	６１	**６９**	６８	**７５**	６３	**７４**	５８	**６４**	７３	**７６**	６０	**６４**
	５３	**５８**	４９	**５７**	５５	**５９**	５１	**５７**	５８	５９	５４	５６
５学年	５８	５８	６２	６３	５７	**６１**	５８	６０	６０	**６３**	５８	５５
	４８	４６	５４	５３	５４	５６	５２	５３	６０	５５	４９	５０
	６０	６２	７５	７７	６２	**６６**	６１	５９	６９	**７２**	６１	５９
６学年	５７	５９	５４	**５８**	５９	**６５**	５６	５８	６１	**６４**	５６	５７
	５８	**６１**	５８	５８	５９	**６３**	５４	５６	５７	**６２**	５８	５８
	６１	６１	６３	６４	６６	６６	５８	５９	６６	６８	５８	**６１**
合　計	741	772	779	827	761	821	728	752	1232	1254	726	737
平　均	57.0	59.4	59.9	**63.6**	58.5	**63.2**	56.0	57.8	64.8	66.0	55.8	56.7

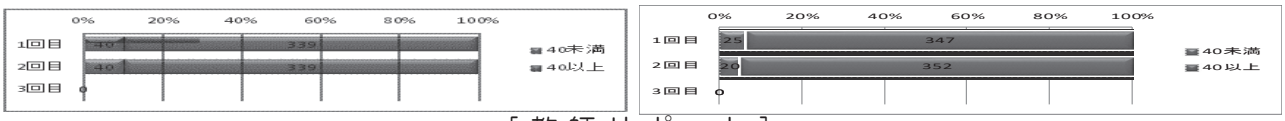
（各学年のクラス順はランダムであり,１回目より３ポイント以上上回った場合は，太字・塗りつぶし）

〔平成２９年度，３・５学年は学級編成あり〕　　（１・２学年省略）

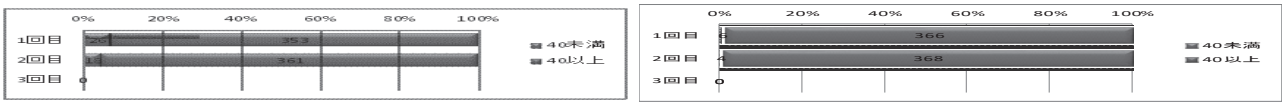
適応次元	生活満足感		教師サポート		友人サポート		向社会的スキル		非侵害的関係		学習的適応	
回　数	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
３学年	５９	**６４**	５８	**６８**	５７	**６２**	５４	**５９**	６７	６５	５９	**６４**
	５６	**６０**	７１	７０	５７	５９	６３	５８	５７	**６３**	５９	**６５**
	５９	６１	５３	**６３**	５６	５８	５９	５５	６５	６４	５９	５７
４学年	５５	５６	５８	**６６**	５７	**６０**	５５	５５	６１	**６４**	５１	**５６**
	５５	**６７**	６２	**７３**	５８	**７０**	５８	**６２**	６８	**７５**	５４	**６４**
	５９	５４	６０	５９	５８	５５	５４	５２	６７	６３	５７	５３
５学年	７３	６７	７２	６９	６８	６７	６３	６３	７６	６８	６９	６３
	６９	７０	７５	７１	７２	７０	６６	６７	７４	７０	６７	６２
	６７	６６	７３	７４	６８	６５	６６	６６	７１	７０	６７	６３
６学年	５９	６０	７１	７１	６２	**６５**	６２	６１	６７	**７１**	５９	５８
	５４	５３	６３	６４	５８	５８	５７	５４	５９	５９	５１	５１
	６３	６２	７３	７５	６４	６４	６０	６１	７１	**７４**	５７	**６０**
合　計	728	674	789	749	735	688	717	647	1244	1173	709	653
平　均	60.7	61.3	65.8	68.1	61.3	62.5	59.8	58.8	69.1	69.0	59.1	59.4

イ　学校全体のアセスの６因子の変容

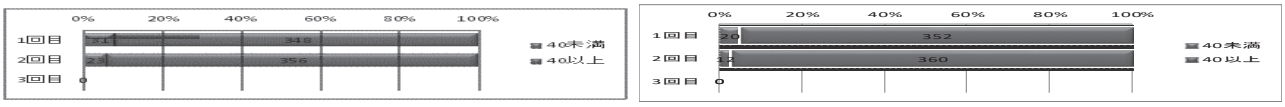
（平成２８年度）　　［生活満足感］　　（平成２９年度）



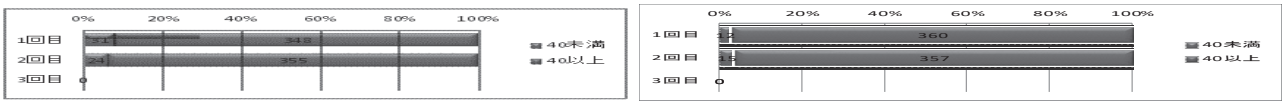
［教師サポート］



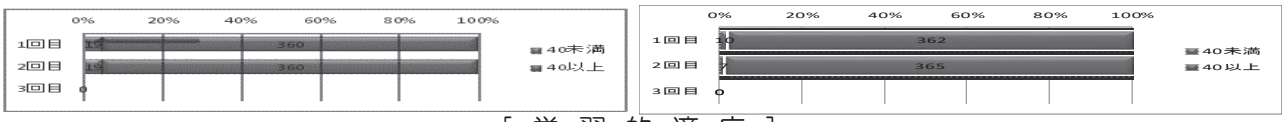
［友人サポート］



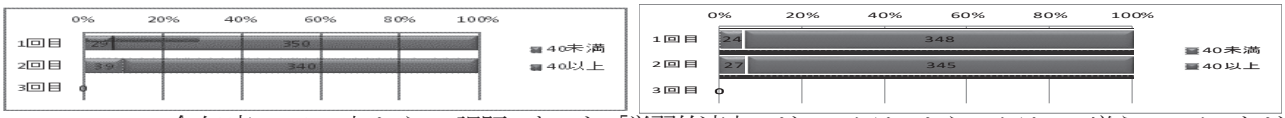
［向社会的スキル］



［非侵害的関係］



［学習的適応］



ⅰ　今年度のアの表から，課題であった「学習的適応」が，３クラスから５クラスへ増えていることが分かった。また，本校では，進んで学習する習慣を身に付け，子どもの学力向上に向けた実態に合っている等の理由から，「日本漢字能力検定」に昨年度から希望者制で取り組んでいる。このことも「学習的適応」の向上の要因の１つではないかと考える。さらに，全ての因子の数値（平均）が，およそ６０～７０の間で昨年度よりさらに高く，「生活満足感」「教師サポート」「友人サポート」「非侵害的関係」は，特に高い数値になっている。

このことから，生活全体に満足や楽しさを感じている・教師との関係を良好だと感じている・友人関係が良好だと感じている・拒否的で否定的な友達関係が無いと感じている子どもが昨年度以上に増えていることが分かった。

ⅱ　イのグラフは，６因子の数値について，全校の合計人数の比較を表したものである。これら６因子のグラフについても，昨年度に比べ，支援の緊急度が高い全ての因子の４０未満の割合がさらに減り，４０以上の割合が増えている。特に，「生活満足感」の４０未満の割合は半分に減り，「教師サポート」では４分の１以下に，「非侵害的関係」では３分の１以下に減っている。

このことから，拒否的で否定的な友達関係が無く，教師との良好な関係の中で，生活全体に満足や楽しさを感じている子どもが，全校的に多く昨年度以上に増えていることが分かった。

② 生徒指導の三機能を生かした授業づくりに関わるアンケート結果から

［２８年度　２月初旬］

【自己存在感に関わって】

１　学習中に自分の考えを話したとき，クラスのみんなは，その話を聞いてくれますか。

ア　よく聞いてくれる…**７割程度**　　イ　まあまあ聞いてくれる　…**３割弱**

ウ　聞いてくれないことがある…数名　　エ　ほとんど聞いてくれない…０

2　クラスのみんなと学習していて，楽しいですか。

ア　とても楽しい　…**８割弱**　　イ　まあまあ楽しい　…**２割程度**

ウ　あまり楽しくない…数名　　エ　楽しくない　…１名

3　２で答えた理由を書きましょう。

・みんなが反応してくれる　・教え合っていっしょに成長できる　・拍手してくれる

●勉強が苦手　●内容がよく分からない　（紙面の都合により一部抜粋）

【共感的人間関係に関わって】

4　あなたは，話している人の目を見たり，うなずいたり，反応（はんのう）（「おおー。」「ええっ。」「ああ。」　・・・など）したりしながら，聞いていますか。

ア　いつもできている　…**３割弱**　　イ　まあまあできている　…**６割弱**

ウ　あまりできていない…**１割**　　エ　ほとんどできていない　…１０名

【自己決定に関わって】

5　学習中には，「書くとき」「自分の考えを話すとき」がありますが，できていますか。

ア　よくできている　…**２割程度**　　イ　まあまあできている　…**５割程度**

ウ　あまりできていない…**２割弱**　　エ　ほとんどできていない　…５名

6　５で答えた理由を書きましょう。

・いつもしっかり発表している　・発表するのが好き　・集中して書いている

●自信がなく反応しないことがある　●書くのが遅く積極的になれない

［２９年度　第１回４月末，第２回７月中旬］

【自己存在感に関わって】

※ アンケート内容は２８年度と同様

1	よく聞いてくれる		まあまあ聞いてくれる		聞いてくれないことがある		ほとんど聞いてくれない	
	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬
	７割程度	７割程度	３割弱	３割弱	９名	１０名	３名	９名

2	とても楽しい		まあまあ楽しい		あまり楽しくない		楽しくない	
	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬
	８割弱	８割弱	２割弱	２割弱	１３名	１５名	３名	３名

3	4月末	7月中旬
	・みんなで勉強して楽しい　・元気で楽しい ・協力できて楽しい　・**まちがっても楽しい** ・助け合って正解するのが楽しい ・難しいけど，がんばれば楽しい ●勉強が苦手　●内容がよく分からない	・まちがっても楽しい・**一生懸命やるのが楽しい** ・**分からない友達を説得して分からせるのが楽しい** ・**考えをはっきり言えて，これからもたくさん発表したい気持ちになる** ●楽しいけどちょっと難しい

【共感的人間関係に関わって】

4	いつもできている		まあまあできている		あまりできていない		ほとんどできていない	
	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬
	４割弱	３割程度	５割弱	５割弱	１割程度	１割程度	１５名	２０名

5	4月末	7月中旬
	・楽しい　・少し賢くなりたい ・勉強が好き　・勉強が遅れないように ・先生に誉められる　・**相手が喜ぶ** ●たまにできていない　●はずかしい	・相手が喜ぶ　・**やらないといけないと思う** ・**友達がいいことを言っている** ・**話している人のことを考えている** ●うなずいていない

【自己決定に関わって】

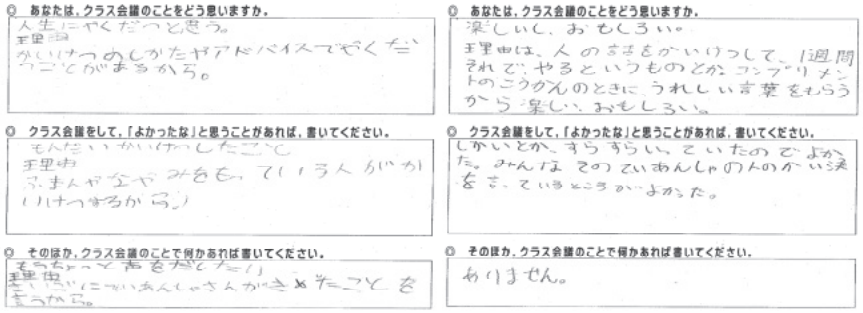
6	よくできている		まあまあできている		あまりできていない		ほとんどできていない	
	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬	4月末	7月中旬
	５割弱	４割程度	４割程度	４割程度	１割程度	１割程度	９名	１１名

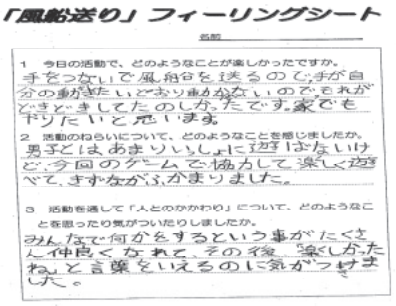
7	4月末	7月中旬
	・一生懸命書いている　・集中して書いている ・速く書けている　・丁寧に書いている ・楽しい　・仲良くしたい　・おもしろい ●書けるけど考えを話すのが苦手	・速く書けている　・書いたり話したりするのが楽しくおもしろい　・勇気を出して話すのが楽しい　・自分の考えを伝えられてすっきりする ●手を挙げようとしないときがある

②のアンケート結果から，質問項目３・５・７で，「まちがっても楽しい・励ましてくれる」「一生懸命やることや分からない友達を説得して分からせるのが楽しい」「考えをはっきり言えて，これからもたくさん発表したい気持ちになる」「自分の考えを伝えられてすっきりする」等の昨年度には無い記述が見られるようになった。

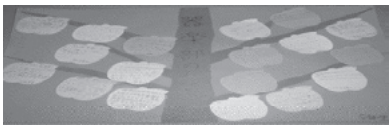
このことから，明るいポジティブな雰囲気の中で，自分の存在が認められ安心して発表できる・発表者の気持ちや立場を自分事のように考えている・共感的な人間関係の中で自己存在感を味わい，少し自信をもって自己決定できる子どもが増えてきていることが分かった。

③　クラス会議や人間関係づくりプログラムの感想・絆づくりの活動から





全校縦割り班遠足　油小ＴＷＣ　全校音楽集会　お礼の手紙



「クラス会議」の感想や「人間関係づくりプログラム」のフィーリングシートには，友達との関わり方について，「励まし・あいさつや協力することの大切さ・思いやりの心」「仲のよい学級になれる」等に触れた感想を書く子どもが多かった。

このことから，友達への貢献感や信頼感を育てる・ポジティブで明るい雰囲気づくりをする・子ども同士の横のつながりを強める等のねらいが，おおむね達成でき，安心できる居場所としての学級集団づくりにつながっているのではないかと考える。

また，毎日の異年齢交流による「縦割り班そうじ」に加え，「全校縦割り班遠足」「油小チームワークチャレンジ」や「音楽集会」を年間計画に位置付け，子どもの主体性を大切にし，個々が役割を担いながら関わり合う喜び（年少者の役に立った・年長者へのあこが

れ）を感じ取れるようにしてきたことで，社会性や自律性の育ちが，少しずつ見られるようになってきている。

Ⅳ　成果と課題

１　成　果

昨年度の「不登校・喫煙・万引き」者の数は０件。今年度の「不登校・喫煙」者の数も０件。「万引き」は１件見られたが減少した。

喜ばしい行為としては，６年生の女子３名が，踏切内にいたお年寄りに，「危ないよ。」等の声がけを続けた後，非常停止ボタンを押して近づく電車を止めたり，非常連絡先へ電話したりして助けを求め，幸い事故には至らず，ＪＲ東北から表彰されるという善行が見られた。

また，リトルＪＵＭＰチームを中心に，年間計画に位置付けた「朝のあいさつ運動」により，進んであいさつする子どもが，日常的に多く見られるようになってきている。さらに，「ありがとうございます。」といった感謝の言葉を耳にする機会も増えてきている。

以上のことや７の考察におけるアセスの数値が高かったことを主な理由に，「安心できる居場所としての学級集団づくり」や「絆づくり」は，良好な状態になってきていると考える。

従って，そのことから，「生徒指導上の課題解決」に向けた６つの取組は，おおむね効果的だったと言えるのではないだろうか。

２　課　題

① 全体的にはどの因子の数値も高いのだが，アの表の平均値やイのグラフの４０未満の割合から考えると，「向社会的スキル」「学習的適応」の数値が，他の数値と比べるとやや低いので，友達への援助や友達との関係をつくるスキルを，一層もたせられるよう努めたい。

② 安心できる居場所としての学級集団づくりを土台とした「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に一層努め，さらなる学力向上を図りたい。

③ ＳＣに加え，ＳＳＷのような「家庭環境の改善に関する専門家」の立場から支援していただいたり，関係機関との連携を一層強化したりすることで，子どもが家庭でも規則正しい生活を送り，それを土台にして，規範意識をもちながら明るく積極的な学校生活や放課後の過ごし方ができるよう支援していきたい。

Ⅴ　参考文献・資料

・栗原　慎二『アセスの使い方・活かし方』ほんの森出版
・佐藤　　丈『アドラー心理学入門』明治図書
・赤坂　真二『赤坂版「クラス会議」完全マニュアル』ほんの森出版
・赤坂　真二『赤坂版「クラス会議」バージョンアップガイド』ほんの森出版
・『共同体感覚を高めるためのクラス会議の実践－「クラス会議実践の手引き」の作成をとおして－』　青森県総合学校教育センター研究委員会だより「ＫｏｎＫｅｎ第１号」
・『授業が変わる生徒が輝く』『人間関係づくりプログラム』『東青の教育』
・生徒指導リーフ『絆づくりと居場所づくり』国立教育政策研究所
・『学習指導要領解説書　特別活動　学級活動』

中泊町立武田小学校

思いやりを育む安心できる学校づくり

～一人一人が輝き、その輝きを認め合う学校づくり～

Ⅰ　学校の概要

１　学校の概要

津軽半島北部（中泊町：旧中里町の南部）に位置する本校は、校舎周辺に見渡す限りの水田が広がり、すぐ近くを岩木川が流れ、遠くに名峰岩木山が見える自然豊かな地域である。岩木川土手沿い及び旧鳥谷川に沿って、７地区の集落（芦野・上豊岡・下豊岡・田茂木・豊島・富野・福浦）で学区を構成しており、平成２９年１１月の在籍児童数は９４名である。

就学前の教育機関として、富野こども園があり、本校児童のほとんどがここの卒園生である。また、中里地域の進学先として、本校を含め中里小・薄市小の３校が中里中学校へ進学している。

保護者の状況として、専業農家は減少し、会社勤めや共稼ぎ家庭の保護者がほとんどであり、子育てする上で祖父母の果たしている役割は大きい。学校行事への協力、環境整備などの奉仕作業、保護者や地域が一緒に行う活動など、父母をはじめとして祖父母や地域住民がとても協力的な土地柄である。また、武田地区伝統として長く続いている行事もあり、地域の中で学校が大きな存在となっており、学校に寄せる期待も大きい。学校評議員をはじめ、関係諸団体からの支援や協力が教育活動充実に大きく寄与しており、人的にも物的にも大きな支えとなっている。

２　学校経営方針

（１）目指す姿

目指す学校の姿　:「一人一人が輝き、その輝きを認め合う学校」

目指す子どもの姿:「自ら取り組み、主体的に行動できる子どもの育成」

（２）学校課題

「自ら取り組み、主体的に行動できる子どもの育成」

（３）学校教育目標、努力目標

《 教 育 目 標 》

〇自ら考え学習する子　　〇仲良く助け合う子　　〇健康でたくましい子

《 努 力 目 標 》

〇自分の考えをもって課題解決にはげむ子

〇やさしさを大切に助け合って行動する子

〇めあてをもって体をきたえる子

（４）学校経営の基本方針

本校児童の持ち味（素直さ、明るさ、元気さ）、小規模校のよさ（異年齢集団による豊かな交流の場、全職員による見取り）、地域の強み（豊かな教育的環境、学校に協力的な土地柄）を生かした、特色ある教育活動の推進

（５）学校経営の重点事項

①生き生きと活動し、「生きる力」（知・徳・体のバランス）を育むこと

②「子ども一人一人が輝き、その輝きを認め合う学校」の実現を目指すこと

③子どものよりよい変容を目指す教師集団（チーム武田）を確立すること

④開かれた学校（信頼される学校）づくりの推進を図ること

⑤創立１４０周年と「思いやり事業」を生かした教育活動の充実を図ること

Ⅱ　研究の概要

1　研究主題　　「思いやりを育む安心できる学校づくり」

～　一人一人が輝き、その輝きを認め合う学校づくり　～

2　主題設定の理由

本校では教育目標である「仲良く助け合う子」を育てるために、努力目標を「やさしさを大切に助け合って行動する子」と定め、「相手の気持ちを考えて行動する子ども」をめざす児童像として取り組んでいる。本校の児童は、与えられた課題に対して、誠実に取り組み、素直で思いやりのある行動もできる。しかし、コミュニケーションによる思いの共有が課題であり、伝える力が弱いことや語彙不足、道徳的判断力の未熟さからトラブルになることもある。

道徳的判断力、問題解決能力を高める指導の充実（絆づくり）、更には、互いを思いやる心の交流の場の設定や工夫（居場所づくり）により、他を思いやる心や自己肯定感が高まり、一人一人が輝き、皆がその輝きを認め合う安心できる学校づくりが実現するものと考え、本主題を設定した。

3　研究の目標

教育活動全体を通して、児童一人一人が輝ける居場所づくりや仲間との絆づくりができるような手立てを講じ、児童の思いやりの心の育成を図る。

4　研究方法の概要

・３つの分掌組織（研修部・生徒指導部・保健安全部）を組織的・有機的に運営、関連させながら、思いやりを育む安心できる学校づくりに努める。

・学校環境適応感尺度「アセス」を実施し、その結果を活用しながらＰＤＣＡサイクルで実践研究を行い、思いやりを育む安心できる学級づくりに努める。

（１）各分掌の主な取組内容

分掌	指導目標	主な取組内容
研修部	授業及び「道徳の時間」と全教育活動の関連を図りながらの実践。	○朝読書の時間を活用した共感する心の育成 ○「にこにこの並木道」づくり
生徒指導部	望ましい集団活動を通して、児童のよりよい人間関係を築こうとする思いやりの心を育み、安心できる学校づくりを行う。	○基本的な生活習慣育成 ○良好な人間関係づくり ○児童理解・教育相談 ○保護者との連携
保健安全部	健康安全指導を通して、健康でたくましい体と自他の生命を尊重する心を育み、安心できる学校づくりを行う。	○健康な生活習慣づくり、体力づくり ○縦割り班や異学年交流を通して取り組む諸活動 ○保護者、地域との連携

（２）平成２８年度の主な実施事項

○事業に係る共通理解

○各指導部毎の研究計画の作成

○研究会、研修会への参加

・「道徳」に関する学習会開催（要請訪問）

・「アセスの活用」研修講座への参加、「アセス」に関する校内研修実施

○学校環境適応感尺度「アセス」実施

・各学級毎に実施、結果を踏まえた校内研修会（共通理解）

○授業研究（研究協議）の実施

・計画訪問の実施

・町教研公開授業（１１／２２）

○児童の実態把握と目指す児童像の確認

○１年間の振り返りと来年度の方向性の確認

（３）平成２９年度の月別実施計画

月	事業推進運営計画	各分掌の取組		
		研修部	生徒指導部	保健安全部
通年の実践活動	・事業の計画、推進まとめ ・各指導部の組織的有機的な連携のための連絡、調整 ・研究発表会実施のための計画、運営	・校内研の研究教科を「道徳」とし、授業実践 （全学級が授業提案） ・読書を通して共感できる力を育成 ・読み聞かせによる異学年交流 ・思いやりの心を育む「にこにこの並木道」づくり ・福祉施設との交流学習 ・アセスの実施、分析、情報共有	・基本的生活習慣の確立 ・児童の問題行動に係る記録の蓄積 ・あいさつ運動 ・毎月の生活目標に係る取組 ・教育相談（アンケートの活用） ・月1回の児童に係る情報交換の実施 ・保護者向け生徒指導通信発行による学校の取り組みの周知と連携強化 ・「武田小よい子の一日」への取組 ・リトルJUMPチームの活動の推進	・「元気はつらつチャレンジ週間」の実施 ・徒歩通学の励行 ・業間マラソン、なわとびの実施 ・縦割り班清掃 ・ふれあい給食
4	・事業に係る共通理解 ・各指導部の重点的取り組み事項についての確認	・研究主題、研究目標等の設定 ・学校環境適応感尺度「アセス」の実施①	・にこにこ言葉強化月間 ・参観日における情報交換①	・校外クリーン作戦の実施 ・交通安全教室 ・登下校班集会①
5	・第１回連絡会議 ・事業予算作成発注 ・講師の依頼、渉外 ・事業実施計画書提出	・２年提案授業 （要請訪問） ・４年提案授業	・教育相談①実施 ・教育相談に係る児童・保護者アンケートの実施①	・マラソン記録会① ・避難訓練① ・人権の花運動① ・生活チェック①
6	・先進校視察 ・研究発表会実施計画作成	・６年提案授業 ・５年提案授業 （要請訪問）	・代表委員会の実施①	・防犯教室 ・ふれあい給食①
7	・研究発表会準備 （講師、運営者、助言者等の依頼） 実行・進捗状況確認 連絡・調整	・「アセス」実施② 教材研究 指導案作成	・参観日における情報交換② ・保護者との二者面談の実施 ・長期休業に係る生活指導の確認①	・廊下大清掃 ・学期末ていねい清掃 ・１年親子給食試食会 ・ふれあい給食② ・防煙教室 ・全校下校指導① ・保健委員会歯みがき指導
8		・「アセス」の学級毎の分析 ・個人支援シートの作成 ・分析結果の共通理解と今後の取組に	・にこにこ言葉強化月間	

		ついての校内研修実施 ・計画訪問１年研究授業		
9	・研究発表会準備 （要項、資料等作成）	・３年研究授業 教材研究 指導案作成	・教育相談②実施 ・教育相談に係る児童・保護者アンケートの実施② ・代表委員会の実施②	・マラソン記録会② ・ふれあい給食③ ・避難訓練② ・人権の花運動②
10	・研究発表会準備 （参加者把握、運営計画）			・思春期健康教室
11	・研究発表会	・公開授業	・なかよし集会	・ふれあい給食④ ・食育教室 （低・中・高）
12	・第２回連絡会議	・「アセス」実施③ ・研究のまとめと反省	・参観日における情報交換③ ・長期休業に係る生活指導の確認①	・３年親子給食試食会 ・ふれあい給食⑤ ・学期末ていねい清掃 ・登下校班集会② ・生活チェック②
1	・事業報告書作成	・実践のまとめ ・児童の変容と目指す児童像の確認	・にこにこ言葉強化月間	・全校下校指導② ・避難訓練③
2	・事業報告書の提出	・「アセス」の学級毎の分析 ・個人支援シートの作成 ・分析結果の共通理解と今後の取組についての研修会実施 ・次年度の計画	・教育相談③実施 ・教育相談に係る児童・保護者アンケートの実施③ ・参観日における情報交換④ ・代表委員会の実施③	・５年親子給食試食会 ・なわとび記録会 ・教室大清掃
3	・反省と来年度の方向性の確認			

Ⅲ　研究の実際（各部の取り組み）

１　研修部の取組

授業及び「道徳の時間」と全教育活動の関連を図りながらの実践。

（１）生徒指導の三機能を生かした日常の授業実践

・自己決定の場を与える～自ら課題を見つけて追求し、自ら考え、判断し表現する授業

・自己存在感を与える～児童一人一人に学ぶ楽しさや成就感を味わわせる授業

・共感的人間関係を育成する～互いに認め合い、学び合う授業

写真１：授業

写真２：授業

写真３：授業

（２）校内研の充実　～道徳的価値の自覚を深める「道徳の時間」授業実践～

１年次…「道徳の時間において、子ども一人一人の道徳的価値の自覚を深める授業の工夫」

２年次…「思いやりをもってよりよく生きようとする子どもを育てるための道徳の時間のあり方」

・全学年の「道徳」の授業実践と研究協議
・「アセス」や特別支援に関する校内研修
・町教研の公開授業を通しての実践活動
・参観授業における「道徳」の授業実践

写真４：道徳の研究授業

（３）思いやりの心を育む「にこにこの並木道」づくり

写真５：にこにこ並木道

・互いの良さに目をむけ、認め合い支え合う人間関係の醸成
・全校で感謝の言葉を書き込んだ掲示物を一年かけて作り上げていく

（４）「がんばるマンカード」による思いやり自己評価

・運動会、学習発表会のめあてカード
（諸行事も思いやりを育む重要な活動の場）

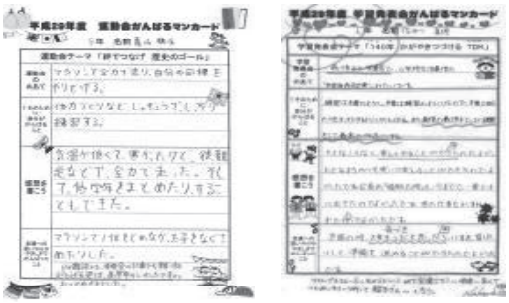


写真６：がんばるマンカード

（５）読書を通して共感できる力を育成

・朝読書の実施
・読み聞かせによる異学年交流
・読み聞かせ会（外部講師、読書サークル「おひさま」）の実施
・辻読書（教師）…教職員は何を伝えたいかのテーマをもって本を選ぶ。（各学期１回実施）
・おすすめの本紹介

写真７：朝読書

写真８：読み聞かせ

写真９：読み聞かせ

（６）各種交流学習の推進

・異学年交流学習（合同体育・音楽・他学年招待・発表会等）
・小６＆中１懇談会、中学校教師による交流授業
・こども園年長児の来校交流

写真10：異年齢交流学習

（７）体験学習、福祉施設訪問の充実

写真11：体験学習

写真12：福祉施設訪問

２　生徒指導部の取組

望ましい集団活動を通して、児童のよりよい人間関係を築こうとする思いやりの心を育み、安心できる学校づくりを行う。

（１）生徒指導校内委員会の設置と活動

・月１回の児童に係る情報交換の実施（全職員による日常的な児童の観察と見守り）
・いじめ問題対策委員会の活動（基本方針の改訂、いじめの予防、早期発見・早期対応）
・特別支援校内委員会の設置と活動

（２）教育相談による児童理解、個別指導

・教育相談の実施（各学期１回）
・児童アンケート、保護者アンケートの実施、活用
・アセス分析結果を元にした児童理解、個別指導
・児童の指導記録の蓄積

写真13：リンゴの木による自己評価

（３）基本的生活習慣の確立

・「武田小よい子の一日」への取組
・毎月の生活目標に係る取組
（リンゴの木による自己評価、児童集会での反省発表）
・あいさつ運動の推進
（縦割り班活動の一環としての取り組み、
ベスト挨拶賞の発表）
・にこにこ言葉強化月間
（年３回、各学期に設定）…指導例の提示

写真14：あいさつ運動

写真15：ベスト挨拶賞表彰

（４）学級経営の充実

・思いやりの心を育て、互いに認め合う場の設定
（ほめ言葉のシャワー、応援ゲーム、きらり賞の発表、…等）
・児童によるお楽しみ会の計画、実施

写真16：お楽しみ会

（５）児童会活動の充実

・児童会活動を中心とした話合い活動の実施（委員会活動、代表委員会）
・児童会主催行事の実施（なかよし集会、ミニ運動会、スポーツ大会、もったいない運動）
・１年生を迎える会、６年生を送る会
・主体的な活動を促す委員会活動
・中泊町教育委員会「ノーいじめ」の学校宣言への取組（いじめ撲滅宣誓）
・リトルＪＵＭＰチームの活動の推進

（６）地域との連携

・参観日、保護者面談における情報交換
・保護者向け生徒指導通信「若人われら」発行による学校の取り組みの周知と連携強化
・人権の花運動

写真17：人権の花運動

写真18：生徒指導通信

３　保健安全部

健康安全指導を通して、健康でたくましい体と自他の生命を尊重する心を育み、安心できる学校づくりを行う。

（１）健康な生活習慣づくり

・「元気はつらつチャレンジ週間」の実施
・徒歩通学の励行
・生活チェック（心の元気チェック）「めざせ！すこやか！武田の子」

写真19：生活チェック

（２）自己目標達成をめざす体力づくり

・業間マラソン、８秒間走
・なわとび
・マラソン記録会
・なわとび記録会

写真20：業間マラソン、なわとび

（３）縦割り班や異学年交流を通して取り組む諸活動（好ましい人間関係づくり）

・長縄跳び（８の字跳び）
・体力テスト
・ふれあい給食
・登下校班集会
・縦割り班清掃
・教室大清掃、廊下大清掃、校外クリーン作戦
・新入学児童のお世話係

写真21：長縄跳び

写真22：ふれあい給食

（４）保護者や地域との連携

・保健だより、安全だよりの発行
・交通安全教室
・登校指導（交通安全街頭指導）
・思春期健康教室の実施
・親子給食試食会
・運動会でのバルーンロケット打ち上げ
・綱引き、相撲大会
・交通安全パレード
・餅つき会

写真23：交通安全街頭指導

写真24：親子給食試食会

写真25：綱引き相撲大会

4　その他

・思いやりの心を育む校長講話（お話玉手箱コーナーの設置）

・創立１４０周年関連記念行事への取組

（「想いをつなぐ武田っ子」という共通の志のもと　学校や地域への一層の愛着や仲間意識、誇りを育む）

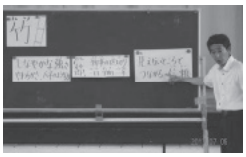


写真26：校長講話

写真27：創立140周年記念の取り組み

5　学校環境適応感尺度「アセス」の結果から

表１　アセス検査各因子の学校平均（推移）　　〈学校平均＝1～6年の数値の合計÷6学年〉

実施月＼因子		生活満足感	対人的適応				学習的適応
			教師サポート	友人サポート	向社会的ｽｷﾙ	非侵害的関係	
平成２８年度	7月	59	65	60	61	57	58
	12月	60	68	62	64	57	58
前調査との比較		⇧	⇧	⇧	⇧	⇨	⇨
平成２９年度	4月	60	68	61	63	56	60
	7月	61	69	63	65	57	60
前調査との比較		⇧	⇧	⇧	⇧	⇧	⇨

表２　アセス検査の数値４０未満の児童数〈平成２９年度〉（当検査では、４０未満の児童は、該当因子の適応状態が悪いと判断）

因子＼学年	１年		２年		３年		４年		５年		６年		全学年		
	４月	７月	４月	７月	４月	７月	４月	７月	４月	７月	４月	７月	４月	増減	７月
生活満足感		１人			４人	３人	２人	１人		１人	１人	１人	７人	→	７人
教師サポート		１人					１人	１人			２人	３人	３人	↗	５人
友人サポート	２人	１人	１人	１人	２人					１人			５人	↘	３人
向社会的ｽｷﾙ					１人		１人		１人				３人	↘	
非侵害的関係	１人	１人	２人	１人	３人	２人			２人	２人			８人	↘	６人
学習的適応					１人	１人			２人		１人	１人	４人	↘	２人

平成28年度、29年度ともに、学校適応感の6つの因子の多く（平成28年度では、6因子中4因子、29年度では6因子中5因子）において、1回目の数値（学校平均）に対し、2回目の数値が上回る結果を示している。「アセス」の結果を全教職員で共通理解し、個々の児童の心のケアに努めた結果と考えられる。

非侵害的関係が平成28年度からあまり変化が見られず、横ばいの数値である。 無視やいじわるなどのいじめに関係する事案は少なかったが、今まで以上に児童が明るく元気に生活できるように生徒指導部を中心に具体的に対応していきたい。

学習的適応については、本校の喫緊の課題と捉えている。学力検査の結果を見ても年々学力低下傾向にあり、児童が「わかった、できた、もっとやりたい」と実感できる指導方法を研修部を中心に検討していきたい。

表2の通り、数値40を下回る(適応状態が悪いと判断される)児童が６因子ともに存在する。４月に比べ、多くが減少傾向にあるものの、「教師サポート」のように増加している因子も見られる。該当児童に対するより細やかな指導、支援が必要である。

Ⅳ　成果と課題

１　成果

（１）アセスの実施

「アセス」を実施したことにより、数値的な裏付けのもと、児童一人一人の実態を正しく把握することができ、より効果的な手立てを個別に講じることができた。また、学級経営という立場からも学級全体として友達を大切にし、困ったり悩んだりしている児童に優しく言葉がけしたり寄り添ったりする取り組みを行うことができ、共感的人間関係を築くことができた。

（２）研修部の取組

・補充学習の時間（ステップタイム）を活用し、どの子にも達成感を味わわせたことで、学習に対する意欲の向上や自己肯定感の高揚に効果があったと思われる。

・校内研の中心に道徳の授業を取りあげたことで、授業づくりの工夫や手立てを共有することができている。特に、平成２８年度町教研公開授業では、講師による適切な指導助言を頂くとともに授業後の検証が十分にでき、授業改善に生かすことができた。

・めあてカードの活用（がんばるマンカード等）により、運動会や学習発表会で、単に自分が頑張るだけでなく、他の児童へどう関わるべきかという意識も高まり、実際の活動場面においても思いやりのある言葉がけや態度が見られた。（特に全校で活動するときの６年生の動きには、思いやりの行動がみられる。）

・毎朝読書、読み聞かせ（６年生、教師）をとりいれたことで、毎日静かに読書をする習慣が付き、その後の学習活動にも落ち着いて取り組んでいる。入学したばかりの１年生に対し、６年生や図書委員が読み聞かせを行ったことは、４月の限定された期間の活動ではあるが、絆づくりや思いやる心を育成するうえで、双方にとって効果があったと判断できる。

・従来からあった「ニコニコの木」の掲示場所を移し、「にこにこの並木道」に拡大され、掲示方法も工夫されたことで、存在がより一層はっきりしてきた。自主的に「にこにこの並木道」にコメントをはり、互いの良さを認めたり、思いやりの心を表現したりする子どもたちがふえた。

（３）生徒指導部の取組

・児童に係る情報交換により明らかになった「いじめ」にかかわる校内の喫緊の問題について、いじめ問題対策委員会が適切に機能し、機を逃さず、集会の場を活用して必要な全体指導を行うことができた。また、その後の児童の観察、見守りについても全職員が共通理解のもと行うことができた。

・縦割り班を生かした様々な活動（８の字長縄跳び、各種集会活動、奉仕活動…等）や異学年交流は、それぞれの学年にとって成長のよい機会になっている。励まし合ったり支え合ったりする姿が随所に見られ、また、上学年が手本を見せ、下学年がそれを見て学ぶという好ましい上下の関係を築くことができ、本校のよき校風の伝承に生かされている。

・福祉施設との交流は、思いやりの心を発揮する場面として有意義であった。施設の職員や入所者の方々も子どもたちの訪問を楽しみにしてくれている印象があり、子供たちもそれに応えようと活動の内容を考えたり心をこめて準備したりしていた。訪問後の感想にも喜んでもらえたという成就感が表れており、思いやりの心を育む上での大事な活動

として位置付けていきたい。

・年３回の教育相談により、教師と児童の信頼関係が築かれるとともに児童理解が深まり、個々の児童に寄り添った心のケアがなされた。また、教育相談後の情報共有により、全職員が共通理解のもと指導し、対応することができた。

・生徒指導通信等で学校での取組を家庭へ周知することにより、学校・家庭相互で児童に関わりをもつ態勢を作ることができた。また、綱引き、相撲大会、餅つき等本校ならではの伝統的な行事により、最近では希薄になりがちな地域の中での人間関係、信頼関係が築かれている。

（４）保健安全部の取組

・家庭との連携による、早寝、早起き、朝ご飯、徒歩登校を奨励する取り組み（元気はつらつチャレンジ週間）や児童の心身の健康状況について把握する自己評価（めざせ！すこやか！武田の子）の取り組みにより、生活習慣について意識が高まり、保護者の協力のもと児童の生活リズムを整えることができ、学校生活で力を発揮するためのコンディションづくりに効果があった。

・体力づくり活動（業間マラソン、８秒間走、なわとび）において、自己目標を設定し、一人一人にめあてをもって取り組ませたことにより、前向きに取り組む子が増え、自己記録の更新により、達成感、自己肯定感を高めることができた。また、マラソン記録会では、順位に関わらず懸命に頑張る児童に対し他の多くの児童が自発的に声援を送る姿が見られ、互いの頑張りを認め合う活動の場になっていた。

・異学年との給食（ふれあい給食）は、ふだんと違う楽しい交流のひと時となっている。子どもたちも楽しみにしており、上の学年の子が、下の学年の子に優しく話しかけ、楽しく会話する姿や、高学年が進んで準備や片付けをする姿が見られた。

２　課題

・教科面での異学年交流をさらに活性化したい。また、学習支援の充実、工夫により学力の向上を図っていきたい。

・教育相談事前アンケートでは、悩み事は「特になし」と書かれていても、少なからず悩みはみられる。（特に高学年）「アセス」の結果も参考にし、きめ細かな対応をしていきたい。

・“強化月間”“強化週間”“～運動”“～目標”等、多すぎると児童の側からすれば逆に意識が薄くなることが危惧される。学校評価をもとに、効果があがるよう適宜、活動内容の見直しを行っていきたい。

・縦割り班を用いた各活動において、児童に対して目的意識をもたせ、教師側も理想とする児童像を描きながら「どこを」「どうすれば」という課題意識をもって活動に参加する必要がある。

大鰐町立大鰐小学校

思いやりの心をもち、共に学び合いつながり合う子どもの育成

～ＳＥＬ・協働学習を取り入れた授業を通して～

Ⅰ　学校の概要

１　学校の概要

本校は全校児童２９３名（男子１５０名，女子１４３名）職員２９名。１５学級（特別支援学級４）の学校である。

大鰐町は，りんごと温泉とスキー場で有名な自然豊かな町である。津軽地方南西部に位置し，弘前市，平川市と隣接している。本校は，あじゃら山を背にした小高い丘に立ち，平成２７年の統合から３年目となる町に一つの小学校である。学区は，町内全域にわたり，通学方法は徒歩を含めると８通りとなる。

本校は，地域の特色を生かした俳句教室，スキー学習を行っているほか，クラブ活動や読み聞かせ，家庭科の実習等でも，豊富な地域人材の活用を行っている。また，児童会活動や清掃活動において，縦割り班による異学年交流を意図的・計画的に実施している。

２　学校経営方針

平成２９年度「青森県教育委員会」「中南教育事務所」及び「大鰐町教育委員会」の方針や施策を踏まえ，本校の歴史と伝統の基盤に立ち，たくましく生き抜く子どもの育成を目指して，家庭・地域との連携を深めながら本校教育目標の達成のために全力を尽くしていく。子ども一人一人が個性豊かで，知・徳・体の調和のとれた人間として育つよう，教職員としての使命感と責任を自覚し，全職員が協力して教育実践できる和やかな学校づくりに努める。

Ⅱ　研究の概要

１　研究主題

思いやりの心をもち，共に学び合いつながり合う子どもの育成

～ＳＥＬ・協働学習を取り入れた授業を通して～

２　主題設定の理由

本校は，教育目標に，「心豊かな子【徳】」「進んで学ぶ子【知】」「健やかな子【体】」を掲げ，努力目標の「相手を思いやり，力を合わせてがんばる子」「学び方を身に付け，意欲的に学習に取り組む子」「健康や安全を考え，体を鍛える子」を目指して，一人一人の子どもの個性や夢や希望を大切にし，徳・知・体の調和のとれた心身ともに健康で，たくましく生き抜く子どもの育成に取り組んでいる。

教育目標「心豊かな子」，努力目標「相手を思いやり，力を合わせてがんばる子」という，【徳】にあたる目標が最重点目標として一番前に掲げられているという本校の特徴は，本校児童の課題を話し合った結果のものである。校内研修では，この【徳】に重点を置いた学級経営を基盤に，ＳＥＬや協働学習などの教育活動を展開することで，「思いやりの心をもち，共に学び合いつながり合う」児童の育成に努めている。

統合３年目を迎えた大鰐小学校の児童数は３００名程だが，比較的落ち着いて学校生活を送っている。また，明るく素直で人なつこく，目標に向かって努力する児童が多い。しかし，乱暴な言葉遣いで相手の心を傷つけてしまったり，悪いとわかっているのについやってしまったり，自分の気持ちをうまく伝えられずにトラブルを起こしたりと，自分本位の行動が目立つ児童も少なくない。今まで，そのような問題行動があった場合は，事後指導として話し合いの場を設け，「何がいけなかったのか」「どうすればよかったのか」を気付かせる指導をすること

が多かった。しかしながら，多少改善されることはあっても根本的な解決には至っていなかったように思う。

２８年度初めて実施した，学校環境適応感尺度（アセス）の結果でも，「向社会的スキル」と「学習的適応」が，他の因子と比較すると低い値を示した。数値そのものは平均値（５０）以上ではあるが，他の因子に比べて７月から１２月の伸び率も一番低かった。課題を抱える子どもたちを見ていて，人との関わり方の方法がわからないのではないか，コミュニケーション力が不足しているのではないかと今まで感じていたことが数値化されたことで，本校の児童に身に付けさせなければならない力が明確になってきた。

そこで，２９年度は，ＳＥＬと協働学習を積極的に取り入れ，良好な人間関係を築きながら，思いやりの心を育て，そこで身に付いた力が，日常の学習場面や生活場面にも生かされることを期待して主題を設定した。

３　研究の目標

ＳＥＬや協働学習等，他者との対話的なつながりを重視した活動を実践することにより，思いやりの心をもち，共に学び合いつながり合う児童の育成が図られることを研究と実践を通して明らかにする。

４　研究方法の概要

４つのことを取り入れ，アセスを活用して児童の実態を把握し，さらに，数値から支援策を考えたり，改善をしながら研究を進めることにした。

（１）ＳＥＬ（社会性と情動の学習）とは

Ｓocial　and　Ｅmotional　Ｌearningの頭文字をとったもの。

ロールプレイングやグループワーク等の体験的学習を通して，自己の捉え方と他者との関わりを基礎とした社会性(対人関係）に関するスキル，態度，価値観を身に付けさせる学習である。自分の感情を察知，理解，コントロールし，ストレスに対処し，問題を解決し，意志決定のスキルを高める学習活動を通して，「自己への気付き」「他者への気付き」「自己のコントロール」「対人関係」「責任ある意志決定」等の能力を育てていきたい。

学年に応じ，年間６～８回を学級活動や総合的な学習の時間等で計画的に実施し，個々で得たスキルを日常の場面でも活用できるように指導していく。これらのスキルは，全ての活動の土台となる。

（２）協働学習とは

ペアやグループの活動における感情・役割・思考の交流を通して良好な人間関係を築いて，情緒的，社会的発達を促すと共に，学習意欲と学習の生産性を向上させる学習である。ＳＥＬで学んだスキルを実践する場でもある。

基本的に，低学年は２人，中学年は３～４人，高学年は４人程度で構成し，積極的に取り入れ，どの子にも活躍の場を与えるようにする。

（３）ピア・サポートとは

ピア＝仲間

仲間が仲間をサポートする学習（異学年との関わり）

（４）品格教育とは

良い行いを目に見える形にして行動化できるように促す。

（５）アセス（２８年度２回実施，２９年度３回実施）を取り入れ，児童の実態を把握し，支援策を考え，支援をしていく。

５　研究経過

【２８年度実施内容】

月	４	５	６	７	８	９	１０	１１	１２	１	２	３
児童の活動等	縦割班掃除通年実施	ようこそ一年生の会	ゲーム集会	アセス一回目実施		俳句教室	全校遠足	ゲーム集会	群読音楽発表会 アセス二回目実施			六年生ありがとうの会
教職員等	情報交換会	**アセス研修会**	研究授業算数	**アセス分析**		研究授業算数	研究授業算数	研究授業算数	**アセス分析**	次年度計画		ＳＥＬ模擬授業

【２９年度実施内容】

月	４	５	６	７	８	９	１０	１１	１２	１	２	３
児童の活動等	アセス一回目実施	ようこそ一年生の会	ゲーム集会	アセス二回目実施		俳句教室 なかよし遠足	フレンドリータイム	ゲーム集会	群読音楽発表会 アセス三回目実施			六年生ありがとうの会
教職員等	**アセス分析**		提案授業協働学習 ＳＥＬ	提案授業協働学習 ＳＥＬ　**アセス分析**			提案授業協働学習 ＳＥＬ	提案授業協働学習 ＳＥＬ	**アセス分析**	今年度の反省	来年度研究計画	

平成２９年度　ＳＥＬ　年間指導計画　大鰐町立大鰐小学校

時数	１年	２年	３年	４年	５年	６年
1	いろいろな気持ち	いろいろな気持ち①	いろいろな気持ち	正しい聞き方	上手な聴き方	下級生のお世話
2	おこったときどうする？	いろいろな気持ち②	上手な聞き方	下級生のお世話	下級生のお世話	感情の強さ＆コントロール
3	きもちの良い言い方	落ち着く方法	上手なたのみ方	罪悪感	自分勝手	問題解決
4	聞き方	気持ちの良い言い方	正しい聞き方	友達との関わり方	感情の強さ＆コントロール	上手な頼み方
5	気持ちメーター	聞き上手になろう	断り方	落ち着く方法	感情の手掛かり	自分の気持ちを伝える
6	元気とがっかり	良いマナーと悪いマナー	感情理解＆感情手掛かり	困っている人を手伝う	頼み方（声のかけ方）	ストレスに強くなろう
7		やさしい言葉	落ち着く方法	感情を知る手がかり	結果の予想と最も良い解決法の選択	
8			怒りのコントロール			

怒りのコントロールと友達の関わり方に関するもの。

ＳＥＬでピア・サポートのために行うもの。

※　今年度は　と　を共通項目として実施する。

【ピア・サポート年間計画】

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3
活動内容	ようこそ一年生の会	学校たんけんをしよう	九九先生になろう	仲よく育てよう		リコーダー先生になろう	なかよし遠足・俳句教室	九九先生になろう	委員会紹介		おもちゃランドへようこそ	
ピア学習	１・６	１・２	３・５	２・４		３・５	１・６ ２・５ ３・５	２・４	４・６		１・２	

Ⅲ　研究の実際

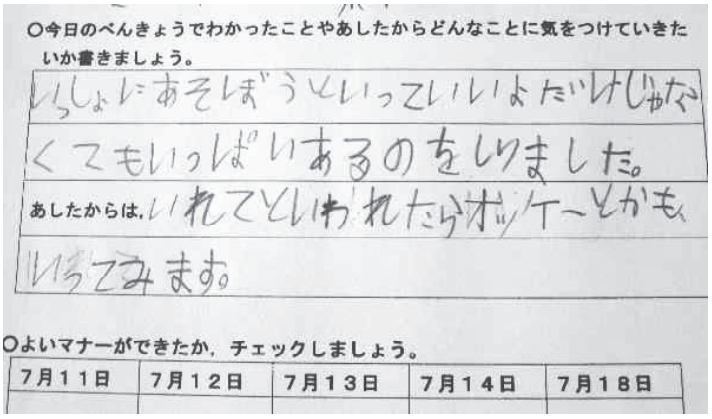
１　ＳＥＬについて

ＳＥＬの授業は，各学年６～８時間行った。学級活動の時間を活用して行う学年が多かったが，学級活動の目標「学級活動を通して，望ましい人間関係を形成し集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てる」を達成するためにも，授業の最後には，日常の生活に生かせるように自己決定の場や事後指導も入れながら進めた。授業の中では，モデリングを見て考させ，よりよい方法をロールプレイ等の実際の体験によって，自分に合った方法を見つけさせ，生活に生かしたいという意欲を高め，望ましい人間関係を形成させるように取り組んだ。児童の振り返りを見ると，自己を認知し，さらによいよい自分になろうと考えていることや，新たな気付きを見つけているなどの内容が書かれていた。

４年ＳＥＬ　感情を知る手掛かり

５年ＳＥＬ　下級生のお世話

振り返りシートから



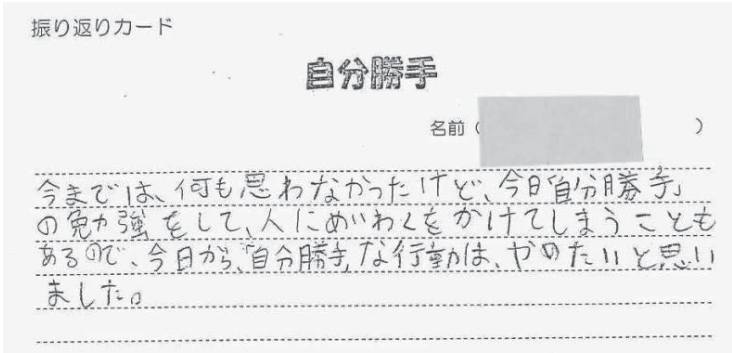
○今日のべんきょうでわかったことやあしたからどんなことに気をつけていきたいか書きましょう。

いっしょにあそぼうといってしいよだけじゃなくてもいっぱいあるのをしりました。

あしたからは、いれてといわれたらオッケーとかもいってみます。

○よいマナーができたか，チェックしましょう。

7月11日	7月12日	7月13日	7月14日	7月18日

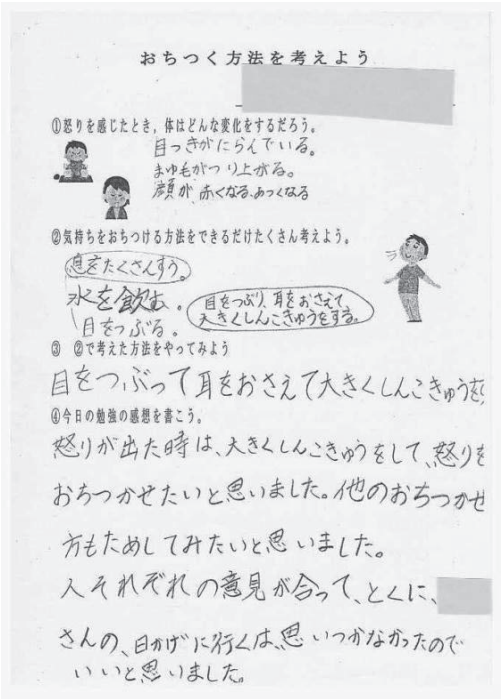


振り返りカード

自分勝手

名前（　　）

今までは、何も思わなかったけど、今日自分勝手の発表をして、人にめいわくをかけてしまうこともあるので、今日から、自分勝手な行動は、やめたいと思いました。



おちつく方法を考えよう

①怒りを感じたとき，体はどんな変化をするだろう。

目っきがにらんでいる。
まゆもがつり上がる。
顔が、あかくなる、あつくなる

②気持ちをおちつける方法をできるだけたくさん考えよう。

息をたくさんすう。
水を飲む。
目をつぶる。
目をつぶり、耳をおさえて大きくしんこきゅうをする。

③ ②で考えた方法をやってみよう

目をつぶって耳をおさえて大きくしんこきゅうを

④今日の勉強の感想を書こう。

怒りが出た時は、大きくしんこきゅうをして、怒りをおちつかせたいと思いました。他のおちつかせ方もためしてみたいと思いました。
人それぞれの意見が合って、とくに、さんの、日かげに行くは思いつかなかったのでいいと思いました。

2 協働学習について

協働学習では，単元の目標を単元全体で達成し，協働学習に力を入れる時間を確保しながら取り組んだ。また，協働学習を行った授業では，できるだけ振り返りの時間を確保し，グループや全体で振り返った内容を共有する時間を確保した。全校統一して振り返りの観点を設けて，振り返りをするようにした。

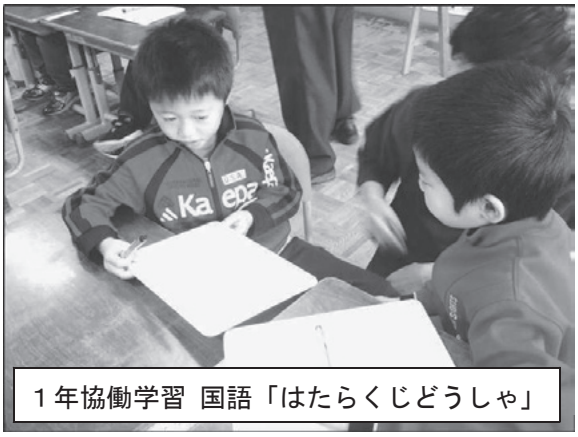
（振り返りの観点について）

①わかったことやできるようになったこと

②もっと知りたいことやむずかしかったこと

③友達の発言や態度で良かったこと

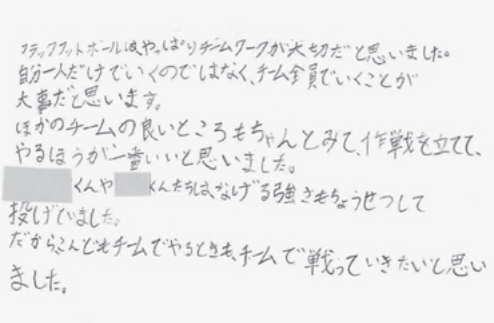
友達の良さに気付き，友達との交流をすることで，友達の良さを再確認し，友達から認められる場が保証され，絆が強まり，とても嬉しそうな表情が見られた。



１年協働学習 国語「はたらくじどうしゃ」

５年協働学習 体育「ボール運動」

振り返りから



ラグビーフットボールはやっぱりチームワークが大切だと思いました。
自分一人だけでいくのではなく、チーム全員でいくことが
大事だと思います。
ほかのチームの良いところもちゃんとみて、作戦を立てて、
やるほうが一番いいと思いました。
[redacted]くんや[redacted]くんたちはなげる強さもちょうせつして
投げていました。
だから子どもチームでやるときもチームで戦っていきたいと思い
ました。

振り返りの中で，自己の変容に気付いたり，次時への意欲を高めたり他者の良さを見つけりし，書くことができていた。

3 ピア・サポートについて

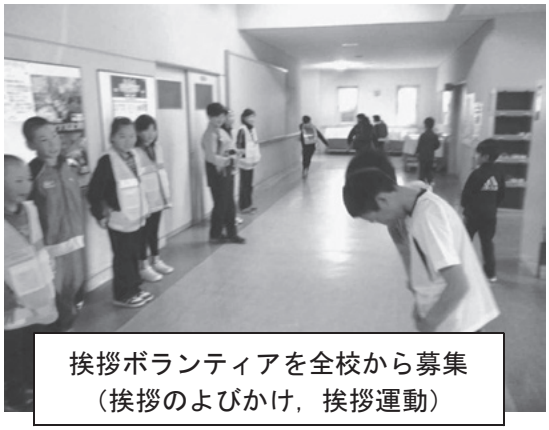
１・６年，２・４年，３・５年が兄弟学年として，計画的に活動を実施した。活動を行う前には，下学年は「話の聞き方」の SEL，上学年は「下級生のお世話」の SEL で互いの関わり方を学び，どうしたら相手に喜んでもらえるかというプランニングをした。その後，実際にサポート活動をし，活動後には自分の関わり方の振り返りを行った。サポート活動を続けるうちに，声のかけ方や関わり方ができる児童が増えてきた。中には，自己中心的な行動が多く見られる児童の中でも，サポート活動では，下級生に譲ったり，話を聞いたりする様子も伺えた。

３，５年ピア・サポート
「九九先生といっしょにかくにんしよう」
「九九先生になろう」

２，４年ピア・サポート
「仲よく育てよう」

児童会活動においても，運営委員会企画のゲーム集会での異学年交流や体育委員会企画のフレンドリーマラソン，生活委員会提案の「なかよくなるための言葉づかいと行動について」の代表委員会等，ピア・サポートを意識した活動や居場所作り・絆作りを意識した活動が計画し実施してきた。

運営委員会企画　ゲーム集会
（兄弟学年じゃんけんピラミッド）

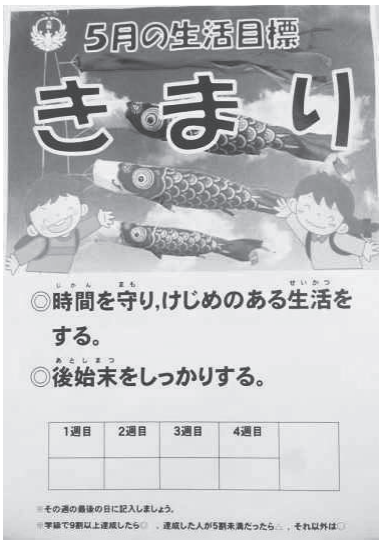


挨拶ボランティアを全校から募集
（挨拶のよびかけ，挨拶運動）

４　品格教育について

月別生活目標を児童に分かりやすい言葉で示し，合い言葉として浸透させ，行動に移せるようにした。

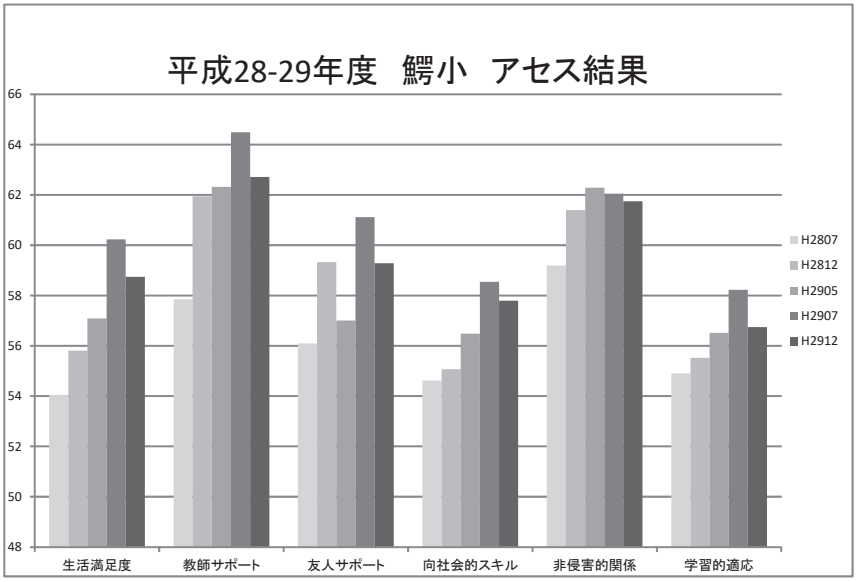
４月…あいさつ　５月…きまり　６月…思いやり
７・８月…勇気　９月…やりぬく心　１０月…責任
１１月…協力　１２・１月…礼儀　２月…生命尊重
３月…感謝



5　アセスの結果から

実施月 アセス因子	H 28.7 第１回	H 28.12 第２回	H 29.4 第３回	H 29.7 第４回	H 29.12 第５回
生活満足度	54.0	55.8	57.1	60.2	58.7
教師サポート	57.9	61.9	62.3	64.5	62.7
友人サポート	56.1	59.3	57.0	61.1	59.3
向社会的スキル	54.6	55.1	56.5	58.5	57.3
非侵害的関係	59.2	61.4	62.3	62.0	61.7
学習適応感	54.9	55.5	56.5	58.2	56.7

５回のアセスを通して，1回目よりも少しずつそれぞれの因子の数値が上がってきているのがわかる。一番上がったのが，教師サポート因子で，教師が児童への関わり方を意識して取り組んだことが，結果として良い数値に表れていると考えられる。



Ⅳ　成果と課題

1　成　果

・アセスを取り入れたことで，教師自身の児童・学級への関わり方が変わったという意見が多くあった。

・いろいろな振り返り場面では，グループの友達と意見交換したり，全体で発表したりすることが相手を認める行動となり，児童の喜び，意欲向上につながった。

・トラブルが起きてからの指導だけでなく，SEL等の開発的・予防的指導を学習に取り入れたことで，児童が関わり方を意識して行動しようとする態度が見られるようになった。

2　課　題

・協働学習では，教科の目標達成と，振り返りの時間の取り方が難しかった。

・アセスの数値は上がってきているが，友達と関わりにおけるトラブルはまだ減少傾向にない。

Ⅴ　参考文献・資料

アセスの使い方・活かし方【ほんの森出版　栗原慎二・井上弥編著】

社会性と情動の学習（SEL － 8S）の進め方　小学校編（子どもの人間関係能力を育てる）
【ミネルヴァ書房　小林冷三・山田洋翠著】

SEL 指導案集　【公益社団法人　学校教育開発研究所】

おいらせ町立下田小学校

思いやりを育む安心できる学校づくり

～児童一人一人が輝ける居場所づくりや仲間との絆づくりを実現する学校づくり～

Ⅰ　学校の概要

1　学校の概要

おいらせ町立下田小学校は，周囲を田園に囲まれた全校児童 113 名（男子 53 名・女子 58 名）からなる学校です。今年度，創立 140 周年を迎え，ますます地域のコミュニティとして，その果たす役割は重要になっています。歴史と伝統に支えられた下田小学校では，運動会で全校児童が地域に伝わる鶏舞とさんさ踊りを地域の方々と一緒に踊り，学習発表会でも鶏舞を披露します。また，縦割班活動が盛んで，子供たち自身が計画したゲームや遊びを，業間の 20 分間で取り組み，異学年活動を通して人間関係スキルを身につけています。その他には，5 年生がリーダーになって活動する「いちごー遠足」（階上岳登山や奥入瀬渓流散策など），縦割班で行う「全校花植え」や「全校やきいも会」などがあります。

また，地域の特色を生かして，奥入瀬川の鮭の学習や阿光坊古墳群を活用した歴史の学習なども積極的に行い，地域教材からの学びを推進しています。

2　学校経営方針

おいらせ町の学校教育指導の方針を踏まえ，本校 140 年の伝統を基にして，地域並びに小規模校であることの特性を生かし，健康で豊かな心をもち，たくましく成長していくことを願い，全ての児童を全ての教職員で育てる考え方で，心の触れ合いを深め，個を生かし，生きる力を育む学校教育の推進に努める。

Ⅱ　研究の概要

1　研究主題

いじめや不登校等の問題行動の未然防止を重点課題とし，実態把握，指導実践，指導の点検と見直しをサイクルで進めることによって，全ての児童が安心して自己の力を十分発揮することができる教育環境を実現する。

2　主題設定の理由

本校の児童は，社会性の基礎となる自己有用感の獲得が低い傾向にある。そのため，自分の考えや行動に自信がもてない，友達関係に不安を感じるといった様子が散見される。あらゆる活動場面で，全ての児童が，自己の力を安心して十分に発揮できる教育環境を確立するという課題解決に向けて，研究主題を設定した。

3　研究の目標

教職員による「輝ける居場所づくり」と，児童が主体となって活躍する「仲間との絆づくり」に取り組むことによって，児童の自己有用感や他と協調してよりよい学校生活を実現しようと主体的に取り組む意欲を高め，全ての児童が安心して生活できる学校づくりを実現する。

4　研究方法の概要

⑴　指導の土台づくり

①　問題行動への対応段階を共通理解し，いじめの積極的認知と早期解消をはかる。

②　「下田小学校人権感覚自己チェック表」を使った教職員の人権意識の向上をはかる。

⑵　輝ける居場所づくり

①　規律・ルール　→「下田小学校よい子のくらし」による生活指導の推進。

②　学　力　→「生徒指導こそ学力を支える力である」という立場に立った学力向上の推進。

⑶　仲間との絆づくり

①　学校生活の様々な場面で「自己有用感」を育てる。

②　全校縦割班活動の推進。

⑷　アセスの活用

①　学校環境適応感尺度「アセス」の留意点

・適応感⇒個人と環境との主観的な関係を測定する。
・子供を支援する際には，教師の観察や客観的なデータから得られる指標に加えて，「本人が感じているＳＯＳの度合い」を十分考慮する必要がある。
・観察とその他のデータを照らし合わせることで，より的確な支援を構築する。

②　実　施　　４月・７月・１２月の年３回，３年生以上で実施。

③　「アセス」によって見いだされた学級や個々の児童の問題傾向に対する速やかな指導や対応。

⑸　指導の点検と見直しをサイクルで進める。

5　研究経過

２８・２９年度　過去２年間のアセス因子の指数変化とその傾向

⑴　年度別に見た過去２年間の各因子の指数変化とその傾向

※±２以下の変化は現状維持（→）　　＋３以上の変化（↑）　　－３以下の変化（↓）
※状態　△５０未満　　○５０以上～６０未満　　◎６０以上

【２８年度】

学　年	３年生				４年生				５年生				６年生				全校平均			
回　数 ＼ 適応因子	第１回目	第２回目	変化	状態	第１回目	第２回目	変化	状態	第１回目	第２回目	変化	状態	第１回目	第２回目	変化	状態	第１回目	第２回目	変化	状態
生活満足感	57	62	↑	◎	54	53	→	○	56	60	↑	◎	49	51	→	○	53	57	↑	○
教師サポート	66	70	↑	◎	56	60	↑	◎	53	52	→	○	55	60	↑	◎	58	61	↑	◎
友人サポート	58	62	↑	◎	49	55	↑	○	50	62	↑	◎	49	53	↑	○	52	58	↑	○
向社会的スキル	60	66	↑	◎	53	55	→	○	58	59	→	○	51	53	→	○	56	58	→	○
非侵害的関係	61	70	↑	◎	55	56	→	○	49	59	↑	○	66	65	→	◎	58	63	↑	◎
学習的適応	59	58	→	○	52	49	↓	△	44	54	↑	○	49	50	→	○	51	53	→	○

＜分析＞

○クラス平均で見た場合，40 未満の要支援領域の因子は見られなかった。

▲50 未満の因子については適応感が低い傾向にあることが心配される。

⇨ 何らかの支援を講じる必要がある。

▲学年が上がるにつれ，各分野とも１回目の調査の適応感が低いことが分かる。特に，５年生の１回目の学習的適応はかなり低い（44）ので，手立てを講じる必要があった。

⇨学習面での直接的な支援は試みるが，高学年の場合，学習的適応は教師の支援では向上しにくいので，向社会的スキルと友人サポートに教師が積極的に関わっていくことで，非侵害的関係を促進し，その結果として学習的適応の向上を目指すことにした。

＜成果＞

① 第１回目の結果をもとに分析し，手立てを講じた結果，多くの学年の各因子分野で，向上が見られた。特に，５年生の学習的適応に関しては，上記のとおり，向社会的スキルと友人サポートの向上がよい影響を及ぼしたように思われる。

② 各学年で教師サポート，友人サポート因子が向上したことからも，望ましい人間関係づくり（居場所づくり，絆づくり）が進んでいることがわかる。その結果，生活満足感も向上しているとみることができる。

＜課題＞

多くの学年で，他の因子に比べ学習的適応が低い傾向にあるので，今まで以上に個に応じた指導，分かる授業づくりに取り組んでいきながら，友人サポートや向社会的スキルの向上をめざし，望ましい人間関係づくりに努めていく必要がある。

【２９年度】

学　年	３年生				４年生				５年生				６年生				全校平均			
回　数 ＼ 適応因子	第１回目	第２回目	変化	状態	第１回目	第２回目	変化	状態	第１回目	第２回目	変化	状態	第１回目	第２回目	変化	状態	第１回目	第２回目	変化	状態
生活満足感	65	65	→	◎	63	63	→	◎	60	60	→	◎	55	64	↑	◎	61	63	→	◎
教師サポート	70	75	↑	◎	74	72	→	◎	66	65	→	◎	60	67	↑	◎	68	70	→	◎
友人サポート	58	62	↑	◎	63	57	↓	○	55	54	→	○	59	67	↑	◎	59	60	→	◎
向社会的スキル	57	63	↑	◎	57	59	→	○	61	60	→	◎	58	68	↑	◎	58	63	↑	◎
非侵害的関係	73	70	↓	◎	65	63	→	◎	59	61	→	◎	65	68	↑	◎	66	66	→	◎
学習的適応	58	61	↑	◎	60	61	→	◎	58	54	↓	○	55	52	↓	○	58	57	→	○

＜分析＞

○昨年度の取り組みの成果か，第１回目の結果では，５０未満の因子は見られなかった。

○第２回目の調査では，４年生と５年生において，あまり向上が見られなかったが，学校や児童の状態はよいので問題はないように思われる。

＜成果＞

① 高学年の各分野の状態が高いことは，個の精神バランスが良好であると同時に，学校全体の環境にもよい影響を及ぼしていると考えられる。

② 高学年の状態が高いことは，各種特別活動，縦割り班交流会などで，リーダーとしての取組が，自己充足感につながっていると考えられる。

＜課題＞

高学年の学習的適応が，他の分野に比べ低下しているので，手立てを講じなくてはならない。

Ⅲ　研究の実際

１　指導の土台づくり

（１）いじめの積極的認知，早期解消

問題行動への対応段階について

【ねらい】

児童の問題行動発生時に必要な対応をいくつかの段階に分けることで，学校として速やかに対処できるようにしたい。このことにより，組織的な指導体制を確立するとともに，指導に当たる教職員の負担軽減などを実現したい。

レベル			管理職	担任	教務 生徒指導 養教	全職員	保護者	地教委 相談員等	児相 警察等
1	口頭で，管理職に報告する。対応は，主として学級担任が行う。		○	○	※１	※１	△		
2	※いじめ認識 校内委員会	速やかに管理職に報告する。関係職員で協議を行い，対応方針等を決める。指導は主として，学級担任と関係する職員が行う。	○	○	○	※２	○	○	
3		速やかに管理職に報告する。関係職員で協議を行い，全職員に共通理解を図り，学校体制で指導する。	○	○	○	○	○	○	
4	いじめ対応 ※組織的に	速やかに管理職に報告する。報告があった時点で「３」までの対応を行い，地教委へ報告，相談する。	○	○	○	○	○	○	
5		速やかに管理職に報告する。報告があった時点で「３」までの対応を行い，地教委や関係機関へ報告，相談する。	○	○	○	○	○	○	○

△：急がないが，連絡帳，電話，直近の面談の機会などで話題にする。
※１：状況に応じて情報交換の場などで全職員に報告する。
※２：情報交換の場などで全職員に報告する。

レベル１

・からかい・けんか・反抗的な言動・ルール違反など
（繰り返される場合は，「レベル２」の対応）

レベル２

・繰り返される「レベル１」の問題行動
※２～３週間程度継続している，または，関係する児童が苦痛を感じる状況にあるなど
・度が過ぎる「レベル１」の問題行動　　・本人が嫌がることを強要する
・仲間はずれ，授業妨害，相手に怪我をさせた，盗み，落書き，抜け出しなど

レベル３

・繰り返される「レベル２」の問題行動　　・「死ね」などの言動や落書き
・集団によるトラブル　　・物品の強要
・危険物の所持，火遊び

レベル４

・重い暴力，傷害（医療機関等を受診したなど）
・万引きなど触法事案
・程度の重い集団によるトラブル（長期化，日常的に繰り返されるトラブルがあるなど）
・程度の重い物品の強要（高額な金銭や物品，他のものを盗むことを強要するなど）
・程度の重い危険物の所持，火遊び（大けがや火災につながる事案など）

レベル５

・極めて重い「レベル４」の問題行動など
・関係機関（児童相談所，福祉機関，警察等）との連携が必要な問題行動

（2）「下田小学校人権感覚自己チェック表」を使った教職員の人権意識の向上

生活場面	ﾁｪｯｸ	振り返り項目
始業前 朝の会		・どの児童にも同じように明るいあいさつをしていますか。
		・児童一人一人のその日の様子を感じ取るように努めていますか。
		・欠席児童のことを，学級の児童が意識できるようにしていますか。
		・人権等に関わる身近な話題を紹介し，児童に考えさせていますか。
授業中		・一人一人の発言を大切にとりあげていますか。
		・一人一人の頑張りを認め，みんなの前でほめるようにしていますか。
		・間違いやできないことを指摘ばかりしている児童に，いいところや頑張っているところを見つけるように指導していますか。
		・児童一人一人が安心して考えを発言できる授業の雰囲気を作っていますか。
		・児童によって呼び方を変えず，「さん，君」をつけて呼んでいますか。
休み時間		・一人でぼんやりしている児童に声をかけていますか。
		・遊びグループの人間関係に気を配っていますか。
		・児童の訴えに耳を傾け，すぐに対応していますか。
給　食		・アレルギーなど児童の実態を把握して，指導をしていますか。
		・給食台やエプロンなどが，清潔に保たれているか気にかけていますか。
		・準備や片付けのとき，特定の児童が偏った仕事をしていないか気をつけていますか。
掃　除		・特定の児童に，仕事をおしつけていないか気をつけていますか。
		・掃除をしない児童に対して，適切な指導をしていますか。

＜以下省略＞

2　輝ける居場所づくり

（1）規律・ルール　→「下田小学校よい子のくらし」による生活指導の推進。

下田小学校よい子のくらし　　～１日の生活～

場面	子　ど　も	お　家　で　は
登校前	○早起きをしよう。 ○あいさつをしよう。 ○朝食をしっかり食べよう。 ○歯みがきを忘れずにしよう。 ○朝は必ずトイレに行こう。 ○忘れ物がないか確かめよう。 （学習用具，ハンカチ，ティッシュ） ○天気をたしかめよう。 ○出かける前にあいさつしよう。 ○遅刻をしないようにしよう。 	・早寝早起きを習慣づけさせましょう。 ・家族で挨拶を交わしましょう。 ・できるだけ家族そろって朝食を食べましょう。 ・歯みがき，用便を習慣づけさせましょう。 ・忘れ物がないか点検させましょう。 ・天気を見て，傘，雨具を持たせましょう。 ・出かける時は，ひと声かけましょう。 （交通安全，励ましの言葉など） ・できるだけ歩いて登校させましょう。

＜以下省略＞

（2）学　力

◇　各 教 科・総合的な学習の時間・特別活動・外国語活動

「わかる」「できる」という実感のある授業

◇　道　　徳

色々な考えがあることを認め合う道徳

◇　学習規律

しっかりとした姿勢，聞き方，話し方

◇　家庭学習習慣の確立

小中連携の家庭学習週間
一人勉強ノートの「はなまるコーナー」

3　仲間との絆づくり：キーワード「自己有用感」

○よさを発揮できる役割 ――― ・役割の明確化 ・縦割り班活動 ➡ **事前指導により見通しをもつ**

○委員会・係活動 ――― ・自分の仕事に責任 ➡ **役割を全うする充実感**

○活動後の振り返り ――― ・学習　・各行事 ・生活（帰りの会等） ➡ **自分を認め，お互いを認め合う**

○校内作品展，コンクール応募 ― ・興味・関心を生かして ➡ **自分の得意を生かす**

4　アセスの活用

「アセス」によって見いだされた学級や個々の児童の問題傾向に対する速やかな指導や対応事例

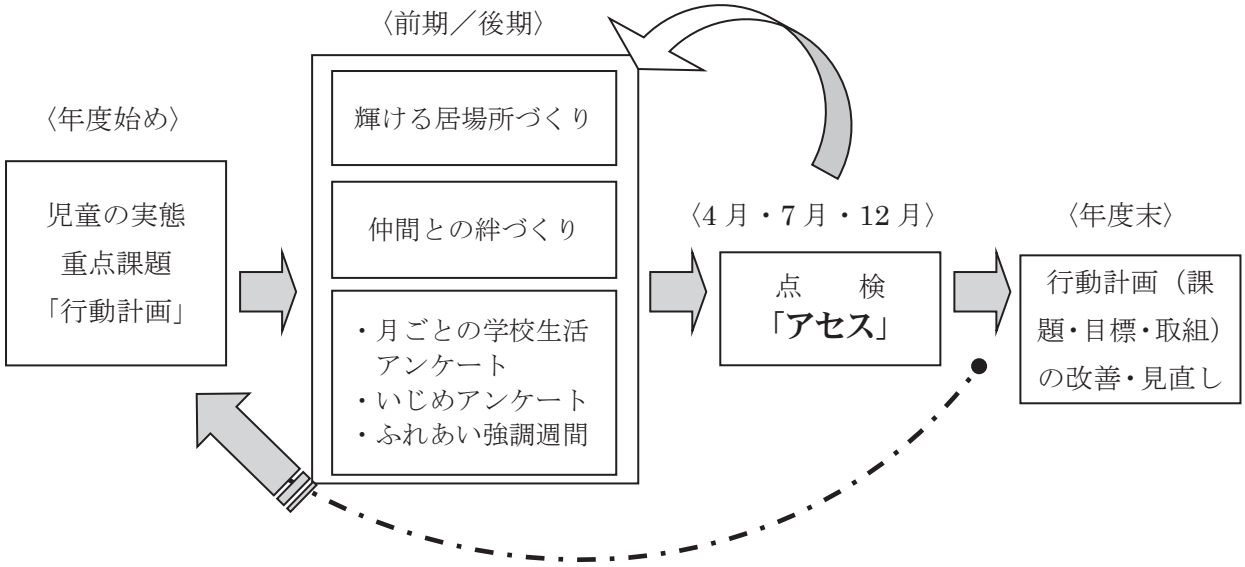
	事例１　A		事例２　B		事例３　C	
	第１回目	第２回目	第１回目	第２回目	第１回目	第２回目
生活満足感	３７	６３↑	６３	８３	３９	５５↑
教師サポート	５０	６２	６２	８３	５３	５５
友人サポート	３５	５５↑	３５	５５↑	４５	５２
向社会的スキル	４１	５８↑	５５	６１	４９	５８
非侵害的関係	５１	５６	３９	８３↑	５１	５６
学習的適応	４１	５１↑	５１	６５	５７	６５

事例１　A→　友人関係の不満，学習不適応感が生活満足度を下げる要因となっていた例

事例２　B→　学級での居場所づくり・絆づくりがよい影響を与えた例

事例３　C→　学校外に，生活満足感が低い要因があると考えられる例

5　指導の点検と見直しをサイクルで進めることについて



Ⅳ　成果と課題

1　児童への効果

研究課題や研究のねらいに対して見られた児童の変容

（1）学力（思考力）
- 難しい問題でも，あきらめずに最後まで取り組もうとする児童が増えた。
- 話す人を見て，最後まで真剣に話を聞くことができる児童が増えた。
- 友達の意見を尊重しながら話し合いができる児童が増えた。

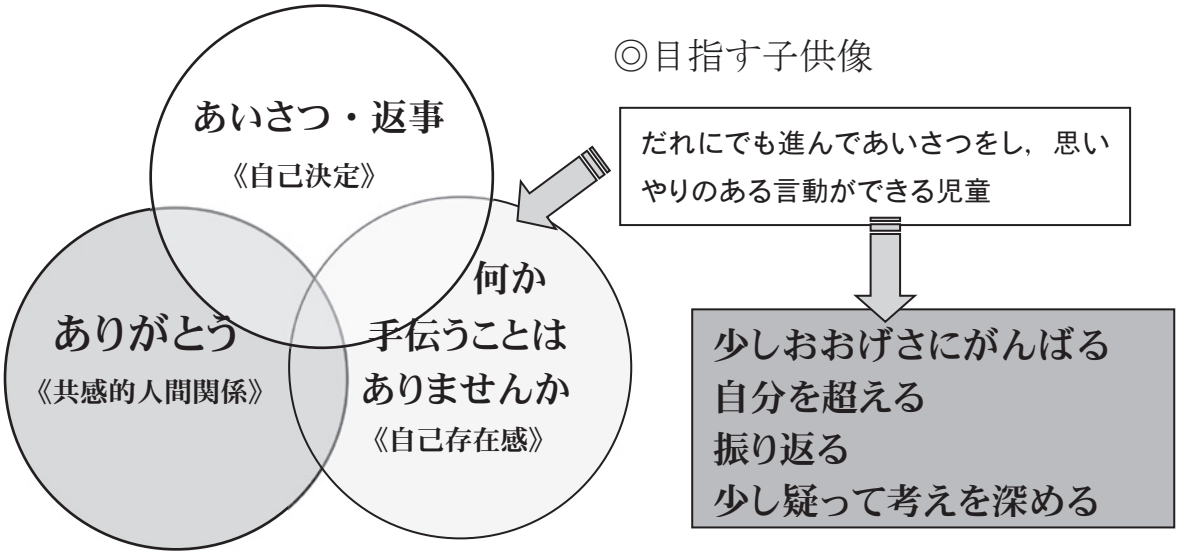
（2）生活態度
- 言葉遣いに気をつけられる児童が増えた。
- 返事，あいさつが良くなった。
- 「ありがとう」「だいじょうぶ？」「いいね」などの声が，自然に児童たちの間で聞かれるようになった。やさしい雰囲気が教室にあふれるようになった。
- 縦割り班活動を通して，相手を思いやる気持ちや感謝する気持ちが育ってきた。

（3）自主性
- 自ら考えて動く場面や機会が与えられたことにより，児童の自主性が育ってきた。
- サッカーをやろうとみんなを誘ったり，虫の世話をしたりするときには，みんなで声をかけ合い，それぞれの役割をもって関わりながら，楽しんで活動する姿が増えた。
- 自分から「何か手伝おうか？」と手を差し伸べる場面が見られるようになった。

（4）人間関係（児童間，児童と教師間）
- 縦割り班活動や児童会活動，行事などを通して，児童同士が仲良くなってきた。
- 大きなトラブルが減った。
- 一人一人が友達の気持ちを考え，思いやりをもって行動できるようになってきた。
- 友達のがんばっている姿を見つける場を作ったり，「ありがとう見つけ（ありがとうの花コーナー）」をしたりすることで，お互いを認め合えるようになってきた。

（5）学校生活や学習についての楽しみ・満足感
- 学校が楽しいと思っている児童が多い。
- シールやポイントでがんばったことを評価することで，生活態度や一人勉強などの意欲が高くなってきた。
- 休みがちだった児童が，学校に来るようになったことは大きな成果である。自分の役割を意識することで，やり遂げた達成感が生まれ，存在感を得ているように思う。
- 昼休みなどに，他学年の児童と仲よく遊ぶ様子が見られ，児童が生き生きと過ごせるようになってきた。

「思いやり」を育むために本校が実現を目指している児童の具体的な姿



★これらの言葉が日常的にたくさん聞こえる学校　　★これらの行動が日常的にたくさん見える学校

2　教職員への効果

この実践研究で取り組んだ事柄についての教師自身の認識や態度の変化

（1）教職員の児童への理解

・アセスの見方が分かり，児童たちへの理解が以前より深まった。
・アセスやアンケートは，児童の今の考えや様子を見るのに参考になった。
・児童それぞれの良い面に目が向くようになった。
・アセスなどを通して，一人一人の児童をよく観察できるようになった。
・家庭環境や生活環境などを踏まえて，児童を見取ることが大事だと思った。
・児童は，６年間同じクラスなので，一人一人の児童の新たな良さを教師側で認め，紹介していくことが大事だと改めて感じることができた。

（2）教職員の考え方，指導方法等の改善

・一人で過ごしている児童や，居場所のない児童への声かけ，指導方法の改善を考えるようになった。
・そろえなければならないところは，きちんと全校でそろえることや，ほめる回数を増やすことなどを意識するようになった。
・導入の仕方や発問を考えたり，絵や図，ワークシートなどを作ったりして，視覚に訴えるもので授業を工夫したいと思った。手作り教材は，児童の学習意欲を喚起できた。
・グループやペア学習を通して，児童同士で話し合わせる場面と時間が増えてきた。
・絆づくり，居場所づくりという視点で，今までの教育活動を振り返ることができた。
・アセスなどの結果を学年間で共有することにより，教職員間で連携した指導ができていると感じる。
・一人一人がより学習が分かるように，できるように，と考えるようになった。
・小規模校独自の温かい人間関係・居場所づくり，自己有用感が達成できていると思う。

むつ市立第三田名部小学校

アセスを活用した一人一人を生かす集団づくりの実践

Ⅰ　学校の概要

１　学校の概要

むつ市の中心部に位置し，全校児童数２４４名，１３学級（特別支援学級３学級）の学校である。今年度，開校６９年目となるが，現在は，平成２２年に新築され７年目となる新しい校舎で勉学に励んでいる。６年生が毎朝「ボランティア活動」を行い，きれいに清掃された校舎で一日の生活が始まる。

学業と並び，部活動にも力を入れていて，スポーツ的活動では，野球部，剣道部，女子ミニバスケットボール部，文化的活動では，音楽部があり，３年生以上の希望者が参加している。

女子ミニバスケットボール部は，平成２６年度の県大会で優勝し，全国大会３位の実績を持ち，音楽部は，東北大会の常連校となっている。

２　学校経営方針

○　学校経営の理念

学校は，将来の社会を担うかけがえのない子供たちのためにある。従って，我々教師集団（教職員）は，一人一人の英知と誠意を結集し，熱い情熱をもって子ども達の確かな成長を目指す。

そして，学校・家庭・地域ががっちりとスクラムを組み，子ども達がいつまでも誇りに思う学校づくりに努める。

○　今年度の学校教育目標（長期目標），努力目標（中期目標）

教育目標

・よく考える子
・思いやりのある子
・すこやかな子

努力目標

・よく聴き考え，表現する子
・きまりを守り，助け合う子
・健康や安全に気をつけ，進んで運動する子

平成２９年度の共通テーマ

伸長（しんちょう）

〈テーマ設定の理由〉

子ども一人一人が目標に向かって努力し，自分自身の成長を実感できることをねらいとして，様々な教育活動の場で「伸長」を共通テーマとして掲げ，常に子どもに意識させながら指導を継続していく。

これを受けて知・徳・体の重点は以下の通りである。

〈知〉の重点　「機能的学力の一層の向上」
〈徳〉の重点　「道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度の一層の向上」
〈体〉の重点　「自らの健康への理解に基づく体つくり」

Ⅱ　研究の概要

１　研究の目的

児童生徒のいじめをはじめとする，暴力行為，不登校等の生徒指導上の課題解決に向けて，教育活動全体を通じて豊かな心を育み，児童生徒一人一人が輝ける居場所づくりや他の人との絆づくりを図り，児童生徒が安心して生活できる学校づくりに向けた取組について実践研究を実施し，県内へ普及する。

２　本校のねらい

集団づくりのためにアセスを分析，活用することで，一人一人を生かし，居心地のよい居場所をつくり，絆を深める。

３　研究の柱

○　アセスの実施，分析，教育相談（集団作りのための活用）
○　校内研修（道徳の授業実践⇒道徳性を養う）
○　児童会活動の充実

４　研究経過

◎　２８年度研究計画

５月　アセス校内研修会

・アセスの読み取り方

・SEL（Social and Emotional Learning）とは。

・ピア・サポートとは。

「ピア」とは児童生徒「同士」という意味。児童生徒の社会的スキルを段階的に育て，児童生徒同士が互いに支えあう関係を作るためのプログラム。

６月　アセスの実施，分析，教育相談

７月　生徒指導会議（アセス・教育相談報告会）

８月　夏休み中に数値の低い児童の洗い出しと対策

９月　学級の実態に応じた指導・実践

○生徒指導研修会（28 日　小玉　有子　弘前医療大学教授）

・アセスの見取り方や活用について

・ＳＥＬ（Social and Emotional Learning：対人関係育成能力開発プログラム）

・ピア・サポート

・協同学習

１１月　先進校視察（岡山県総社市へ）

市内全校園で取り組む「だれもが行きたくなる学校づくり」

背景：いじめ，ひきこもり，不登校児童生徒，検挙・補導数，アセスの測定平均値　等

ピア・サポート

ピア（Peer）･･･「仲間」の意味。同学年だけではない。
サポート（Support）･･･「支援」の意味。「救援」ではない。

共同学習　　ペアやグループの活動における感情，役割，思考の交流を通して良好な人間関係を築き，学習意欲を向上させるための学習方法

ＰＢＩＳ　　Positive な　Behavioral　Interventhions　and　Supports
ポジティブな　行動的　介入　と　支援

ＳＥＬ　　Social　and　Emotional　Learning
社会性　と　情動の　学習

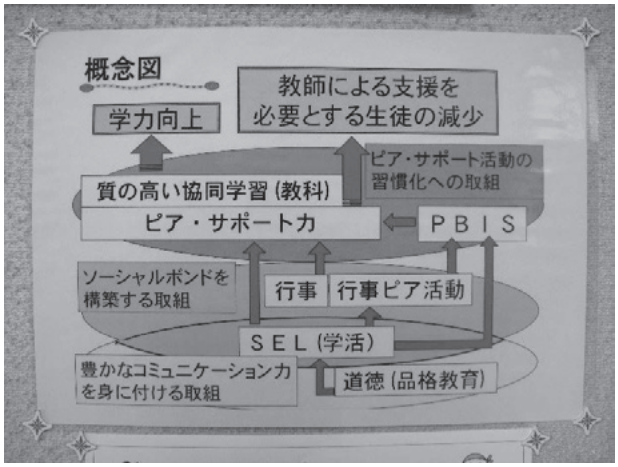
マルチレベルアプローチ

すべての子どもに良質のコミュニケーションを大量に提供するプログラム

・コミュニケーション能力の改善
・ソーシャルボンドの構築

品格教育

・品格教育とは，「よい習慣を形成する」教育である。
・品格教育の目標
「言葉によって徳に気付かせるとともにその行動化を促し，行動と振り返りの積み重ねによってよりよい習慣を身に付けさせる」



１２月　アセスの実施，分析，教育相談，冬休み中に分析

１月　生徒指導会議

・６月に実施したアセスの結果と１２月に実施したアセスの結果の比較。
・数値が改善した児童の分析と今までの取り組みの成果の確認

２月　２８年度の研究のまとめと次年度に向けての取り組みの確認

☆　平成２８年度のアセスの変容

学年	生活満足感		教師サポート		友人サポート		向社会的スキル		非侵害的関係		学習的適応	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
３－１	４７	４５	４７	５４	４７	５０	４９	４５	５７	５７	５１	４７
４－１	４８	５１	５４	６２	５７	６２	５１	５２	５１	５４	４８	４９
５－１	５６	４９	６０	５７	５９	５５	５７	５３	５７	５６	４９	５０
５－２	４８	４９	５６	５９	５７	５８	５４	５２	５２	５３	５３	５１
６－１	５１	４７	４８	５７	５０	４８	５１	４８	５１	４８	５２	５０
６－２	５０	５３	５８	６０	４８	５６	５５	５５	４９	５５	５５	５６
全校	５０	４９	５４	５８	５３	５５	５３	５１	５３	５４	５１	５１
差	－１		４		２		－２		１		０	

☆考察

アセスの分析の結果を受け，それぞれの児童に合った接し方を考え実践した結果，教師サポートが＋４ポイントと大きく向上する結果となった。友人サポートについても，＋２ポイントと伸びが見られた。しかし，向社会的スキルは－２ポイントと伸びが見られなかったので，２９年度の課題として取り組んでいく。

◎　平成２９年度研究計画

月	教職員の活動	児童の活動	校内研修
４月	○「学校いじめ防止基本方針」の共通理解 ○「生徒指導全体計画」「道徳教育全体計画」「総合的な学習の時間全体計画」「キャリア教育全体計画」「特別活動全体計画」の確認と共通理解 ○生徒指導会議（１９日） ○第１回学習参観日（２２日）	○学級のルールづくり 【学級活動】 ○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等 ○1年生を迎える会 ○音楽集会（２４日） ○前期児童会総会（２７日）	○研修計画の共通理解
５月	○第１回連絡会議（９日） ⇒全職員で共通理解 ○生徒指導会議（１７日） ○学年部会・分掌部会（２５日）	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等 ○運動会　　（２８日） ○リトルジャンプチーム委嘱状交付式（３１日）	○一般研修（１０日）
６月	○アセス実施・教育相談期間（６月５日～２３日） ○生徒指導研修会（２２日）	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等 ○音楽集会（２９日）	○提案授業（５日） ○計画訪問（１５日） ○校内研修（１６日） ○友達づくり，エンカウンター研修会（県指導主事招聘・２２日） ○提案授業（２８日）

7月	○第２回学習参観日（６日） ○生徒指導会議・教育相談報告 ・個別に支援が必要な児童の共通理解と今後の支援の確認（13 日） ○保護者面談（19 日～28 日）	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等 ○七夕集会（７日） ○下北自然の家宿泊学習（11 日～12 日）	○提案授業（５日）
8月	○中期学担連絡協議会（2 日） ○いじめ不登校対策研修講座（4 日） ○生徒指導研修会（22 日） ○アセス結果分析・対策・実行	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等	
9月	○生徒指導会議（13 日） ○むつ地域生推協・学警連（19 日） ○小中学校道徳教育研究協議会（20 日）	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等 ○修学旅行（7 日～9 日）	○提案授業（１１日） ○提案授業（２０日）
10 月	○生徒指導会議（4 日） ○小中学校生徒指導協議会（5 日） ○アセス実施週間（23 日～31 日）	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等 ○体育集会（5 日） ○学芸会（21 日）	○校内研修（11 日）
11 月	○思いやりを育む安心できる学校づくり研究発表会（10 日） ○教育相談期間 11 月 13 日～11 月 22 日 ○生徒指導会議（22 日） ○むつ地域生推協・学警連（27 日）	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等	○提案授業研協議会（15 日） ○提案授業（29 日）
12 月	○アセス結果分析・対策・実行 ○第２回連絡会議（7 日） ○生徒指導会議・教育相談報告（13 日） ○第３回学習参観日（14 日） ○分掌部会（22 日）	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等	○提案授業（６日）
1月	○生徒指導会議（15 日） ○学年部会・分掌部会（15 日）	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等	○校内研修の成果と課題（11 日） ○30 年度校内研修計画（24 日）
2月	○生徒指導会議（7 日） ○第 4 回学習参観日（23 日） ○29 年度成果報告書の提出	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等 ○後期児童会総会（20 日）	
3月	○生徒指導会議（15 日） ○1 年間の振り返り	○あかまつ運動 ・あいさつ運動，朝清掃等 ○6 年生を送る会（1 日） ○卒業式（17 日）	

５　校内研修との関連

本校では，平成２６年度から「目的に応じて自分の言葉で表現する子どもの育成」を研究主題とし，算数科を中心として確かな学力の定着や表現力の向上を目指してきた。

学び合うよさを実感させ，主体的に学びに関わろうとする態度を養うための土台として，児童の道徳性を養い，互いに考えや意見を交流し合い，認め合う人間関係づくりが不可欠である。そこで，平成２８年度からは，道徳を加え，以下の内容で校内研修を進めてきた。

本事業において，校内研修では「道徳教育の充実」と「授業における生徒指導の３機能」の二つについて重点的に取り組んできた。

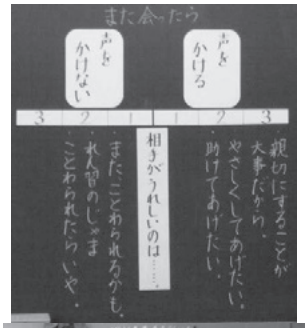
	平成２８年度	平成２９年度
１　研究主題	目的に応じて自分の言葉で表現する子どもの育成	
	～「聴く，考える，伝え合う」活動と振り返りの工夫～（３年次）	～考えを深めさせるための発問の工夫を通して～（４年次）
２　教科･領域	算数科・道徳	道徳
３　研究目標	目的に応じて自分の言葉で表現する子どもを育成するために，「聴く，考える，伝え合う」という言語活動と振り返る場面を意図的・計画的に設定・工夫することが有効であることを実践的に明らかにする。	目的に応じて自分の言葉で表現する子どもを育成するために，発問構成や発問内容を工夫して考えを深めさせることが有効であることを実践的に明らかにする。
４　研究仮説	「聴く，考える，伝え合う」という言語活動と振り返る場を意図的・計画的に設定・工夫することで，目的に応じて自分の言葉で表現する子どもを育成することができるであろう。	問題意識を持たせ，多様な考えを引き出すように発問構成や発問内容を工夫・改善していけば，集団思考が活性化し，一人一人の考えが深まって，自分の言葉で表現する子どもが育つであろう。
５　研究内容	【算数科】 ①自分の考えを筋道立てて表現する力を育てるための具体的な働きかけや指導の手立てを工夫する。 ②「聴く，考える，伝え合う」活動の効果的な位置づけを工夫する。 ③「聴く，考える，伝え合う」活動を振り返る場を設定する。 【道徳科】 ①「聴く，考える，伝え合う」活動を設定・工夫する。 ②自分の考えや行動を振り返る場を設定工夫する。	（１）問題意識を持たせ，多様な考えを引き出す発問構成や発問内容の工夫 （２）自分の言葉で表現させる指導の工夫

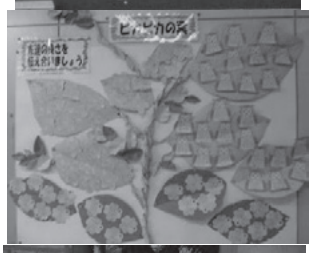
（１）道徳教育の充実

①道徳経営案

道徳教育計画や学校や学年における重点項目のもと，道徳経営案を学級担任が作成し，１年間の方針を示し，年間指導計画の中にも日々の授業の反省などを書き込んでいる。また，道徳の授業だけでなく，全教育活動を通じて子どもたち道徳教育を各学級で進め，次年度へつなげるようにしている。（参考例：平成２９年度学級のテーマ一覧）

H２９	学校	学年	学級のテーマ
１－１	生命の尊重 思いやり	節度，節制	きまりをまもって，なかよくせいかつしよう
１－２			
２－１			継続は力なり
２－２			やる気を出して，一生けんめい努力しよう
３－１		友情，信頼	仲間への思いやり・感謝の心と３つのパワー
３－２			友達を思いやる心をもって
４－１		相互理解，寛容	友達のよさを認め，互いに成長しよう
５－１		勤労，公共の精神	ＦＲＩＥＮＤＳ
６－１			自分と友達の成長を信じよう
６－２			自分に厳しく，他人に優しく（友情，信頼）





②２年間取り組んだ校内研修：道徳での成果と課題

【成果】

・価値に迫る発問を取り入れたことで，道徳的問題を自分事としてとらえることができていた。
・登場人物の言動の前と後で対比させた発問などをすることで，人間の弱い部分にも目を向け（人間理解），多様な考え方に触れながら価値理解に結びつけることができた。
・「心のものさし」やワークシート，付箋紙の活用など，子どもたち同士の話し合いの手立てとなる思考ツールが効果的だった。
・役割演技を通して，自分だったらどうするのかを考えさせたり，その言動で自分や相手がどう感じるのかを疑似体験させたりすることができた。
・生活科や音楽科など他教科と関連させ，単元としてとらえることで，価値を深めるのに有効だった。
・ペアやグループでの話し合いやワークシートに自分の考えをまとめてから発表することで，全体でも自信をもって発表できた。
・自分ができたことについて振り返ったり，友達のよさを認め合う言葉や友達へ「ありがとう」を伝える掲示がよかった。

【課題】

・「聴く」の質を学年に応じて高める必要がある。
・教材の読み取りから自分の振り返りにスムーズに移行できない。
・自分の経験や生活を振り返る時に価値がずれることがある。
・授業の中で価値について考え発表できていたことが，普段の生活の中では，道徳性に欠ける行動がまだ見られ，行動まで反映はまだされていない。
・意見交換のみになる場合もあり，子ども同士で深め合うなどグループでの話し合いのさせ方には練習や積み重ねが必要である。
・学習規律の徹底させることが必要。

（２）授業における生徒指導の３機能

本校では，「授業における生徒指導の３機能」である「自己決定を与えること」「自己存在感を与えること」「共感的人間関係を育成すること」それぞれの項目について，自己目標シートに明記するなど，授業における生徒指導の３機能を意識し日々の授業に取り組んでいる。そこで，平成２９年度からは，生徒指導機能を生かすためのチェックリスト（教師用３０項目，児童用１０項目・　自由記述）を活用し，子どもたちの声にもしっかりと耳を傾け，授業改善を行ってきた。

	児童用　授業アンケート項目	平　均
1	先生の話し方は分かりやすいですか。	3.6
2	先生の授業では，やる気が出てきますか。	3.4
3	先生は，ほめて自信をもたせようとしていますか。	3.5
4	先生は，失敗や間違いをしても温かく見守ってくれますか。	3.6
5	先生は，分かるまで，丁寧に教えてくれますか。	3.5
6	先生は，授業の終わりと始まりをきちんと守っていますか。	3.5
7	先生の授業のスピードはちょうどよいですか。	3.5
8	先生の授業は，質問をしたり，発表をしたりしやすいですか。	3.5
9	先生は，忘れ物やおしゃべりなど，きちんと注意していますか。	3.9
１０	先生の授業では，友達と教え合う場面がありますか。	3.8

発問構成や自分の言葉で表現させる指導の工夫を通して，授業の中で自分の言葉で表現できるようになってきた。しかし，子ども同士での話し合いの深まりはまだ不足しており，課題である。授業の中においても，児童との信頼関係を築き，子どもたちが自分の考えや思いを伝え

Ⅲ　研究の実際

４月４日　「学校いじめ防止基本方針」の共通理解

５月２日　１年生を迎える会

○ ピア・サポートの学習として，高学年には低学年への言葉掛けの仕方や接し方などの指導をし，低学年には，高学年から声掛けされたことへの返し方や，感謝の気持ちの表し方などを指導してから行事を行った。

入場は６年生と手をつないで

退場は５年生と手をつないで

６月５日～２３日　１回目のアセスの実施，分析，教育相談

２２日　「生徒指導研修会」

講師　青森県総合学校教育センター　教育相談課　田中　道介　指導主事

「友達づくり，エンカウンターについて」

・探偵シート（好きな食べ物，よく見るテレビ，あなたの子供たちの良いところ，あなたの宝物）

・対人関係ゲーム

・すごろくトーキング

７月７日　七夕集会

○ 太鼓をたたいた数の人数でグループを作る仲間づくりゲームを通して，異学年の交流を図ることを目的として行った。なかには，人数が足りなくてグループを作れなかったり，人数が多くて誰かが余ったりということもあったが，人数が足りないグループは先生方を呼んで人数を合わせ，多いグループは高学年が抜けて低学年の児童を入れてあげるなど，温かい光景が見られた。

仲間づくりゲーム

七夕の願い事発表

８月２２日　生徒指導会議

○　１回目のアセスの結果，６因子で４０以下の児童を洗い出し，その児童に対する対策をブロックごとに協議し，前期後半から実施した。

１０月２３日～３１日　２回目のアセス実施，分析

１１月１３日～２２日　教育相談週間

１２月１３日　生徒指導会議

○　１回目と２回目のアセスの結果を比較し，前期後半からの対策が有効であったどうか検証した。

☆　平成２９年度のアセスの変容

学年	生活満足感		教師サポート		友人サポート		向社会的スキル		非侵害的関係		学習的適応	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
３－１	６０	５４	５９	８３	４９	８３	６３	８３	４９	８３	６７	８３
３－２	５０	５６	５７	６０	５５	５４	５７	５５	５４	５８	６０	６３
４－１	４６	４８	５５	５７	５０	５３	４７	４９	５６	６０	４８	４６
５－１	５７	５５	６３	６５	５６	５８	５５	５３	５７	５７	５５	５５
６－１	４９	５２	５７	５４	５８	６０	５２	５６	５９	５８	５１	５１
６－２	５４	５０	６３	５７	６４	５５	５５	５４	５４	５４	５７	５４
全校	５３	５３	５９	６３	５５	６１	５５	５８	５５	６２	５６	５９
差	０		４		６		３		７		３	

☆考察

生活満足感を除く５因子でプラスの変容が見られた。特に「友人サポート」が６ポイント，「非侵害的関係」が７ポイントと大きく上昇する結果となった。

これは，研究の柱に据えた「道徳」の時間の授業が充実したこと。ピア・サポートの実施により，友達との接し方が改善したこと。共同学習等，友達同士での教え合いが良い影響を与えたことが大きな要因と考えられる。

☆　１回目のアセスの結果と具体的取組（ある学級）

①　生活満足感 Ａ１　３６ Ａ２　３７ Ａ３　３５	・学校生活だけとは限らないので，行事や授業を通して達成感や充実感が持てる場を多く設定する。	④　向社会的スキル Ａ４　３８	・友達の気持ちの理解と接し方について教える。 ・ＳＥＬ学習
②　教師サポート Ａ４　３９	・声掛け ・頑張りや成長を認める。 ・帰りの会でよい行いを発表する。（今日のＭＶＰ）	⑤　非侵害的関係 Ａ５　３７ Ａ６　３５	・「無視される」「悪口を言われる」などの訴えがあったときは，よく話を聞き，不安や不満をなくす手だてを一緒に考える。
③　友人サポート		⑥　学習的適応 Ａ７　３３	・個別指導 ・その子のレベルにあった宿題を出す。

２回目のアセスの結果（ある学級）

④ 生活満足感 Ａ１　３６ Ａ２　３７ → Ａ３　３５ →	Ａ２　３７ Ａ３　３５ Ａ７　３７ Ａ８　３１	④ 向社会的スキル Ａ４　３８ →	Ａ４　３８ Ａ10　３６
⑤ 教師サポート Ａ４　３９ →	Ａ４　３９	⑤ 非侵害的関係 Ａ５　３７ Ａ６　３５	Ａ10　３９ Ａ７　３５
⑥ 友人サポート	Ａ８　３５ Ａ９　３８	⑥ 学習的適応 Ａ７　３３ →	Ａ７　３１ Ａ９　３８

☆考察

数値が改善した児童がいる反面，あまり改善が見られなかった児童，数値が下がった児童も見られた。アセスの変容の結果を，学級全体で見た場合，数値の改善がみられるので，この取組は一定の効果があったといえる。しかし，数値が４０以下だった児童に対しては，別の取組の方が効果的であると考えられる。

Ⅳ　成果と課題

２年間「思いやりを育む安心できる学校づくり」実践研究事業に取り組んできた。アセスはどのように見ればいいの？ピア・サポートって何？という初歩的なことから始めた研究であったが，教職員が一体となり進めた結果，大きな進歩とは言わないまでも，目に見える形での成果を上げることができた。実践研究指定は今年度で終了となるが，この研究で得たものを次年度以降にも生かしていきたい。

【成果】

・教職員が一体となってこの事業に取り組んだ結果，２年前に比べ，アセスの平均値が上がった。
・ピア・サポートの学習を取り入れた結果，上学年の児童が下学年の児童に対して，優しく接することができるようになった
・アセスを今まで以上に活用し，集団づくりに取り入れた結果，学級づくりに効果を上げた。
・アセスの各因子４０以下の児童の洗い出しを行い，教育相談等でじっくり話を聞き，児童と向き合った結果，密接な信頼関係を気付くことができた。
・この２年間，不登校児童はいなかった。
・軽微ないじめは認められたが，重大事案はなかった。

【課題】

・アセスの結果を生かし，どのような形で活用すれば効果的であるかを検証することが難しい。
・アセスの数値が上がったからといって，学級がうまく組織されているとは言い切れない。
・居場所づくり，絆づくりができたかを何を根拠に判断すればよいかはっきりしない。

八戸市立鮫小学校

心づくりを基盤とした思いやりのある児童の育成

Ⅰ　学校の概要

1　学校の概要

本校は、明治８年創立、今年度で創立 142 年目になる。特別支援学級 2 学級を含む学級数 14、児童数 296 名である。

本校のある八戸市鮫町は、海に囲まれた漁業の盛んな地域で、近くには、三陸復興国立公園に指定された景勝地、蕪島や種差海岸がある。蕪島は、八戸市の鳥でもあるウミネコの産卵地で、毎年総合的な学習の時間の一環として、巣立つまでを観察している。また、3 年生から 6 年生の児童が清掃活動も行っている。種差海岸には、ハマナス・ニッコウキスゲをはじめとしたたくさんの植物の花が咲いており、こちらも毎年観察をしている。地域の学習資源が豊富で、地域とともにある学校を目指している。

教育の特色としては、平成 23 年度より、心身共に健全な児童の育成を目指し、全校で腰骨を立てて生活する「立腰」に取り組んでいる。

2　学校経営方針

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな思いやりのある児童の育成のため、心の教育を基盤とし、個を生かし、生きる力を育む学校教育を推進し、安心できる学校づくりに努める。

Ⅱ　研究の概要

1　研究主題

心づくりを基盤とした思いやりのある児童の育成

2　主題設定の理由

本校の児童は、明るく人なつっこいというよい面があるが、課題として、規律ある行動、学力の向上がある。そこで、児童のよさや可能性を伸ばし、学校の課題を克服するため、思いやりの態度を育む指導が必要であるとの考えの基、研究主題を設定した。教師が学校環境適応感尺度「アセス」を用いて指導の手だてを計画し、実践と改善を積み重ねていく中で、児童の変容を図っていく。

3　研究の目標

（1）　すべての児童が、集団の一員としての自覚や自信をもち、互いに認め合える人間関係、学校・学級風土をつくり出せるように児童の一生懸命に学ぶ態度を育成する。

（2）　「アセス」を実施しながら、教師自身が思いやりの心をもち、児童理解を深めるとともに学級経営や指導の見直しを図りながら、児童の思いやりの態度を育成する。

（3）　研究実践を通して、教員の指導力の向上及び協働性を高める。

4　研究方法の概要

（1）　交流の場を意図的、計画的に設定し、指導や実践を通して児童の思いやりの態度を養う。

（2）　「アセス」の実施とともに活用を図り、教員間による指導方法の検討・実践・効果の検証を通して、協働で児童理解を図る。

（3）　小学校と中学校で「アセス」結果を共有し、一貫性のある児童生徒の理解と指導に努める。

５　研究経過

平成 28 年度

月	取　組　の　内　容	
	児　童　活　動　等	教　職　員　等
4	・音読集会 ・１年生を迎える会	・鮫小学校いじめ防止基本方針の策定 ・校内研修（留意児童に関する情報共有）
5	・保護司講話会 「善悪の判断」　講師　保護司　青木功様	・職員会議（研究計画の共通理解を図る）
6	・「アセス」１回目実施	・校内研修「アセスの活用①」 講師　柴谷崇之指導主事 ・研究授業（４年・道徳） ・研究授業（３年・社会）
7	・異学年交流「鮫小フレンドパーク」 ・いじめに関するアンケート実施 ・児童面談「先生あのねタイム」	・「アセス」結果分析
8	・いじめ問題等に関する対話集会参加	・市教委青少年グループ訪問 ・校内研修「アセスの活用②」 講師　柴谷崇之指導主事 ・小中連携協議会
9	・学校保健会「すこやか会議」 「ソーシャルスキルトレーニング」　講師　市センター副所長　島浦靖様 ・地域清掃活動「蕪島清掃」 ・異学年交流「鮫小フレンドパーク」	・研究授業（５年・音楽） ・研究授業（２年・国語） ・研究授業（６年・学級活動）
11	・音読集会 ・地域老人ホーム訪問（４年総合） ・「アセス」２回目実施	・研究授業（１年・国語） ・「アセス」結果分析
12	・いじめに関するアンケート実施 ・児童面談「先生あのねタイム」	
1		・県外研修
2	・「アセス」３回目実施 ・音読集会	・「アセス」結果分析 ・次年度計画の検討
3	・６年生を送る会	

平成 29 年度

月	取　組　の　内　容	
	児　童　活　動　等	教　職　員　等
4	・音読集会 ・１年生を迎える会	・鮫小学校いじめ防止基本方針の策定
5	・「アセス」１回目実施	・校内研修（留意児童に関する情報共有） ・職員会議（研究計画の共通理解を図る） ・「アセス」結果分析
6	・先生と子どもの面談週間①対象 : 全児童 ・先生と子どもの面談週間②対象 : 全児童 ・異学年交流「鮫小フレンドパーク」	・面談計画作成 ・面談まとめ作成
7	・保護司講話会 「自分を大切に」　講師　前校長　伊藤恵子様 ・「アセス」２回目実施	・道徳授業の公開（全学級） ・「アセス」結果分析 ・市教委青少年グループ訪問
8	・いじめ問題等に関する対話集会参加 ・地域清掃活動「蕪島清掃」	
9	・思いやりを育む安心できる学校づくり実践研究事業研究発表会	・道徳授業の公開（全学級）
10	・「アセス」３回目実施 ・先生と子どもの面談週間③対象 : 全児童 ・異学年交流「鮫小フレンドパーク」 ・音読集会 ・地域老人ホーム訪問（４年総合）	・「アセス」結果分析 ・面談計画作成 ・面談まとめ作成
11	・先生と子どもの面談週間④対象 : 全児童	・面談計画作成 ・面談まとめ作成
12	・いじめに関するアンケート実施	
2	・「アセス」４回目実施 ・先生と子どもの面談週間⑤対象 : 全児童	・「アセス」結果分析 ・面談計画作成 ・面談まとめ作成 ・次年度計画の検討
3	・６年生を送る会	

Ⅲ　研究の実際

１　重点的に取り組んだ内容・配慮事項等

（１）　校内体制の整備

・校務分掌に「実践研究事業推進委員会」を位置付け、校長・教頭・教務主任・研修主任により構成し、校長・教頭の助言を受けながら児童活動及び教員研修の計画と実施に努めた。

・教務主任が中心になり、研究計画・報告書の作成、及び教育委員会・教育事務所・中学校との連絡調整を行った。

・校内研修において、授業での話合い活動の充実を通して思いやりの心を育む授業の研究と実践を行った。

・集会等の機会を生かし、児童の思いやりの心を育む指導の計画や実践を行った。

（２） いじめの予防、早期発見、早期対応の観点から

・「アセス」の活用を通して、学級全体の様子、一人一人の児童の様子を把握し安心できる学校生活を送るため、よりよい学級経営や児童への指導に努めた。

・「アセス」の分析結果を用いて児童との面談を実施し、資料と観察をもとに児童理解を図った。

（３） 地域の人材の活用の観点から

・地域学校連携協議会において情報交換を学校と地域で行うことで、学校と地域が連携して、児童への指導を進められるように努めた。

・保護司による講話の機会を設けることで、児童が地域の方々から見守られていることを知る機会を設けた。

（４） 実態把握の観点から

・「アセス」の結果を校内で共有するとともに、中学校との連携にも活用した。

（５） その他

・わかる授業の実践を通して、児童が安心して学べる授業の研究に努めた。

・特別活動や総合的な学習の時間において、体験的活動（奉仕活動）の充実を図った。

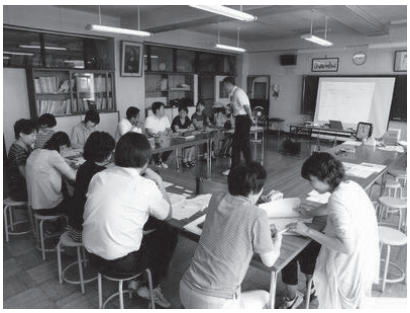
・月別生活目標の反省や日記指導、教員の声がけを通して、日常的に児童の思いやりの心の育成を図った。

２ 「アセス」に関わる研修

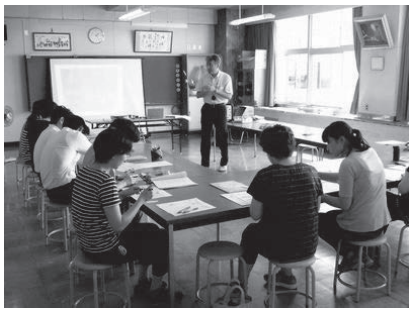
「アセス」への理解を図るため、２回の研修を実施した。

１回目の研修では、講師の柴谷先生から、「学校環境適応感尺度『アセス』の理解と活用について」という題で講話をしていただいた。「アセス」の道徳性検査としての特徴や必要性、アンケートの実施方法について理解を図ることができた。

２回目の研修は、アンケート結果の分析方法や調査実施以降の指導にどのようにつなげるかについて、演習を交えながら研修を行った。学級担任が話合いの内容をまとめながら、学級のよい面を生かした学級の改善方法や指導方法について検討した。

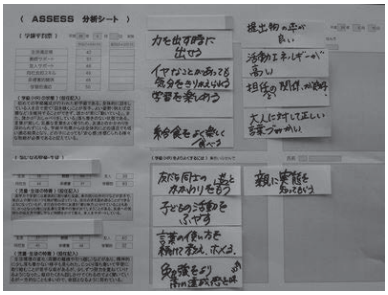


○データの見方を研修する様子



○「アセス」の結果から分析をする様子

○学級の様子について話し合う様子



○話し合った内容を書き込んだ分析シート

3　研究実践

（1）　先生と子どもの面談週間

「アセス」の実施後に全児童を対象に面談を実施。面談週間中は、会議等を行わないようにし、時間と場所の確保を図った。

○5 年生児童の面談の様子

○6 年生児童の面談の様子

（2）　授業研究と実践

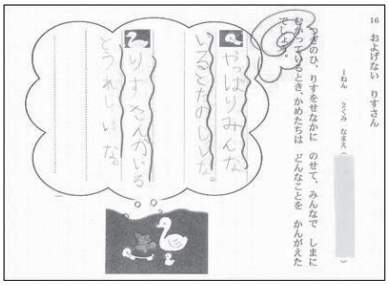
校内研究では、道徳の授業を取り上げ、これからの自分について考え、互いの意見を大切にする授業に取り組んだ。

○友達の発表に対して反応する児童の様子

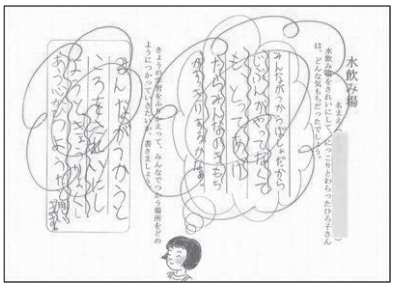
○相手を見て話を聞く児童の様子

（3）　ノート指導

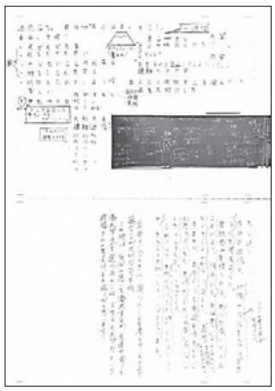
発達の段階に応じて自分の考えをまとめられるような工夫を行った。



○１年生の道徳ワークシート



○２年生の道徳ワークシート



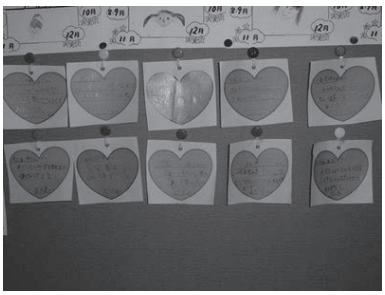
道徳の授業では、話合いを通した考えの深まりをとらえるため、ワークシートやノートに書き残すようにした。

内容や児童の実態に合わせ、書き出しや吹き出しの工夫などを行った。

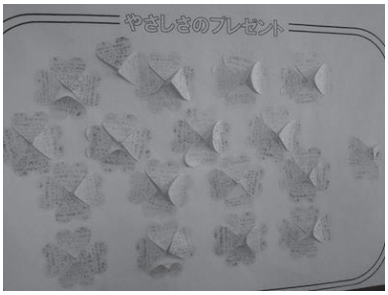
○５年生の道徳ノート　　○６年生の道徳ノート

（４） 教室掲示

相手を大切にする活動を形に残して教室に掲示して、振り返られるようにした。



○友達のよいところを紹介するカード

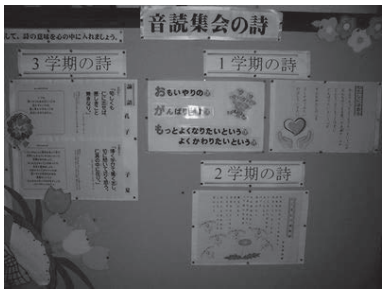


○帰りの会で紹介した友達へのお礼の言葉

（５） 音読集会

各学期に１回、国語部で選定した詩の暗唱を全校で行った。

○短い言葉で大切にしてほしい内容を掲示



○各学期で取り組む詩を掲示

（６） 特別活動の充実

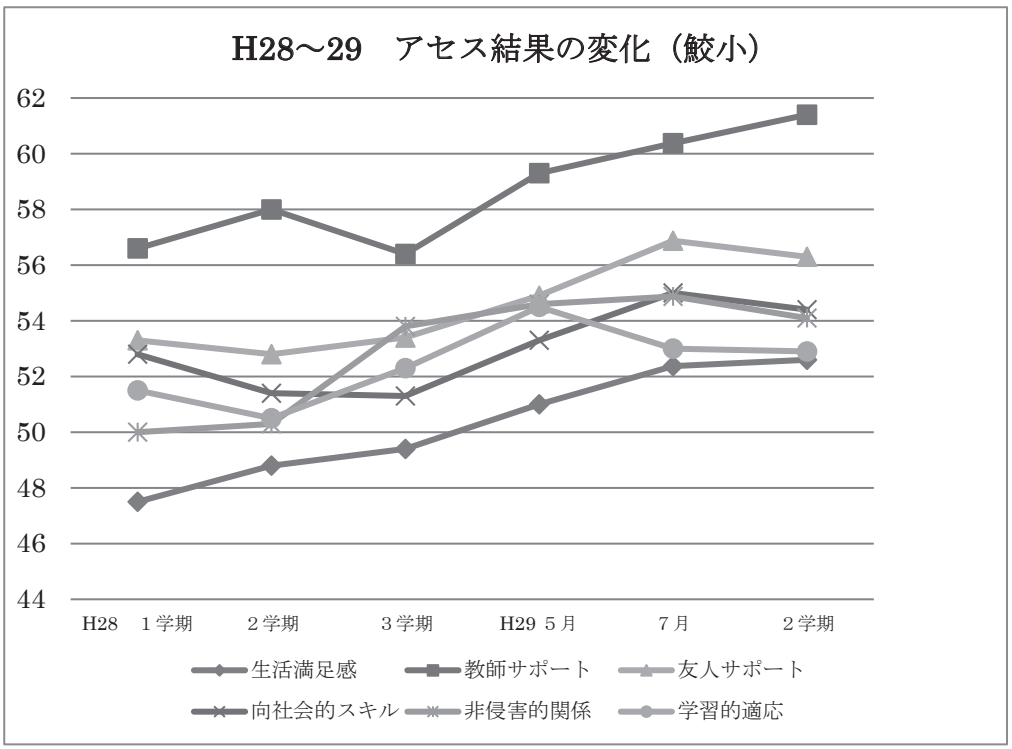
単学年実施していた内容を複数学年で共同実施するなど充実を図った。

○１年生を迎える会

○鮫小フレンドパーク

○蕪島清掃

4　「アセス」の結果



	H28 1学期	2学期	3学期	H29 5月	7月	2学期
生活満足感	47.5	48.8	49.4	51	52.4	52.6
教師サポート	56.6	58	56.4	59.3	60.4	61.4
友人サポート	53.3	52.8	53.4	54.9	56.9	56.3
向社会的スキル	52.8	51.4	51.3	53.3	55.0	54.4
非侵害的関係	50	50.3	53.8	54.6	54.9	54.1
学習的適応	51.5	50.5	52.3	54.5	53.0	52.9

（考察）

平均的適応状態の５０を基準として見ると、28 年度初めは生活満足感が低いという特徴が見られた。変化を見ると、非侵害的関係については、28 年度の２学期から３学期にかけて向上が見られた。「アセス」の分析の研修を受け、気になった児童と面談して対応したことにより上がったものと考えられる。また、相手の意見を大切にしたり、友達とのかかわりかたについてアドバイスしたりする中で、友人サポートと向社会的スキルが改善され、人間関係のトラブル軽減から、他の項目も少しずつ向上したものと考える。

5　個人への対応

各学級担任を中心に「アセス」の結果から注意が必要な児童に対して指導や配慮を行った。その中から、一つのケースを紹介する。児童 A は６年生女子。普段はまじめな授業態度で、周囲からの信頼もある。ただ、「アセス」の結果から適応感が低いことが分かり、普段の様子を見ると自分に自信がもてないでいることが見受けられた。面談で児童に話を聞くと、家族のプレッシャ

ーが強く、何事にも自信がもてないでいることが一因と考えられた。学級担任は母親と面談を行ってそのことを伝えた。また、児童へ安心できる声がけをするようにし、児童に寄り添うように配慮した。児童は、徐々に授業で失敗してもあまり気にしすぎないようになり、「アセス」でもよい傾向が見られるようになった。

【児童Ａのアセス結果】

	H28 1学期	2学期	3学期	H29 5月	7月	2学期
生活満足感	27	32	37	33	83	55
教師サポート	30	29	37	29	59	83
友人サポート	35	34	43	37	83	61
向社会的スキル	55	47	65	55	69	55
非侵害的関係	31	37	33	34	56	62
学習的適応	43	49	55	61	83	65

Ⅳ　成果と課題

１　成果

（１）「アセス」に関する研修を進める中で、共通理解が図られるようになり、学級の垣根を越え児童理解を深めることができた。

（２）「アセス」の結果について短時間で分析ができ、それをもとに時間・場所を確保した面談を実施できた。児童と向き合うことができ、児童に寄り添った指導や学級経営の改善を図ることができた。

（３）保護者や地域の協力を得ながら、児童の自己肯定感を高める取組につなげることができた。

（４）「アセス」を基にした面談を積み重ねていく中で、教員と児童との心の距離が縮まり、信頼関係の高まりが感じられた。学校全体の雰囲気も以前より穏やかになり、児童の学習意欲も少しずつ高まってきていると感じられた。

２　課題

（１）アセスの結果に対して的確に分析できているかという不安が教員にある。「アセス」の分析と効果のあった指導方法の情報を蓄積していく必要がある。

（２）児童の自己肯定感や対人関係の改善などにおいて、家庭の協力が必要であると感じているが、教員・保護者・児童本人の立場の違いで認識に差が見られた。今後も、指導への理解や協力が得られるように働きかけていきたい。

（３）面談を通して改善が図られた児童もいたが、中には、個人的にどのようにアプローチすればよいか学級担任が迷う児童もあった。指導方法についての情報交換を行いながら研修を重ね、児童に合ったアプローチを教員が身に付けていくための校内体制を整えていくことが望ましい。

（４）小学校時のデータを中学校へ送り、中学校での指導につながるようにしたが、今後は、資料を活用した協議会の実施等による、より緊密な連携を図っていくことが望ましい。